

文部省檢定濟

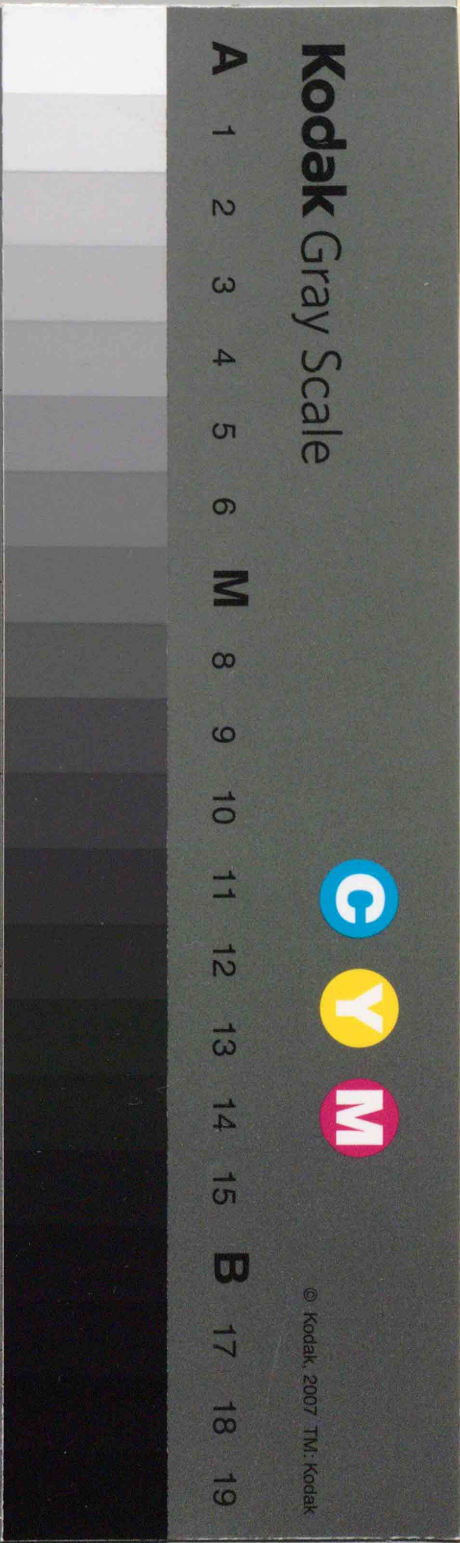
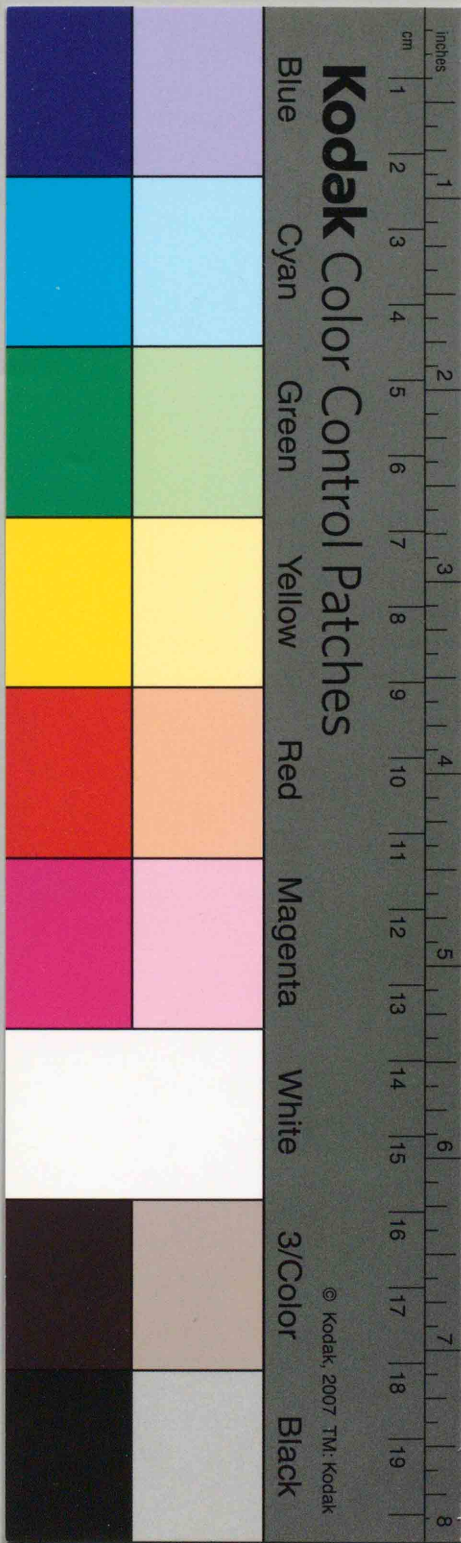
3759  
081  
資料室

文學博士小川琢治著 上卷

訂三地理學教科書 之外國部

東京 富山房發兌

教科  
41  
200



42789

教科書文庫

4
290
41-1918
2000 302549

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

教科書文庫

4

290

41-1918

2000302549

資料室

38.9  
0.1

日一十三月一年七正大  
濟定檢省部文

訂三  
書科教學理地  
部之國外  
卷上

士博學理

著治琢川小

京東

行發房山富

広島大学図書

2000302549



地理(5)世界地理(4)

廣島大學  
圖書印





ベナーズ禮拜堂

## 緒言

中等學校用の地理教科書、世に行はるゝもの頗る多しと雖も、或は文章の難易、思想の煩簡、學力の進歩に伴はざるものありて、初め學ぶに當りて入り難く、進むに従ひて漸く倦み易きの弊を免れず。或は章篇の各々孤立して聯絡を缺き、復習回想を促すに足らざるものあり。此の如くんば、章を重ね編を終うるに及びて、前に既に學べる所を忘失せざるもの鮮かるべし。本書、大に此に觀る所あり、字句文章、易より難に入り、各編の記事亦前後相繫絡し、局部に偏し全般を忘るゝなからしめんことを勉めたり。地理學の觀念は、常に地圖と對照するに非ざれば明確なる能はず。拙著最新世界地圖を參看して、事實を土地と聯關して理解記憶せしむるを便とす。章末に附せる問題は、生徒をして、重要なる事項に就き、各自溫習せしむる

に便せんとするに在り。本書に載せたる地名及び物産名の左側に英語を示したるは、英語の學習と英文地理書の參考に資せんとするの微意にして、従つて地名の綴字及び發音は、なるべく英語に準據し、伊獨兩國の地名の如く、多少其の國語の呼稱の本邦に行はるゝものに限り、英語の次に之を併記することとせり。

一九一四年、歐洲に發せる戰亂は、勢燎原の如く、全世界に波及し、大勢の轉移瞬息を容れず。本書亦従つて大訂正を加ふるの必要を生じ、國境の如き、産業、人口の統計の如き、今姑く戰前の状態を基礎として記述するの外なきも、戰線の位置、征服地、本邦郵船航路の如き重要事項の變動は、本文又は上欄に於て適切なる増訂を加へたり。教授者は、之を基礎として、現時世界の形勢、本邦の世界的地位等に關し、明確なる概念を與へられんことを望む。挿繪は前版に比し更に其の數を増し、且つ精選を加へたり。他書に比し紙數稍多きに

過ぐるが如しと雖も、是れ挿繪の増加と設問欄あるによるものにて、本文の増加せるに非ず。記述の順序に就ては、日本地理の順序と同じく、各大洲の總論を各國誌の後にし、綜合的教授の便を圖ることとせり。而して各國誌は、日本地理の各地方と同じく、總論を前にし、處誌を後にせり。然れども、教授上の見地より、此の順序を變じて、人文總論を處誌の後に教授するも不可なかるべし。英語V發音に相當するものは、凡てワ行濁音を以て現はせり。是れバ行音と區別する最も合理的方法なりと信ずればなり。上欄の事項にも大訂正を加へ、或は本文挿繪を説明し、又は其の足らざるを補ひ、一は教師敷衍の資に供し、一は生徒自習の用に便せんことを期せり。今茲に前版を訂補して改印に附するに當り、新に加へたる修正の要點を列舉して、編者の微意を明にすと云爾。

大正六年十月

編者識

訂三地理學教科書外國之部上卷

目次

第一編 滿洲

第一章 關東州

地文

人文

處誌

設問

第二章 東三省

地文

人文

處誌

一頁

一

一

二

四

五

五

五

六

一〇

目次

一

第二編 亞細亞洲

第一章 緒論

設問……………一四  
……………一五

第二章 支那

……………一六

地文……………一六

人文……………一八

處誌……………二七

一 支那本部……………二七

二 蒙古……………四〇

三 新疆省……………四一

四 青海……………四三

五 西藏……………四四

六 列國の領地租借地……………四五

設問……………四九

第三章 亞細亞露西亞

西比利亞……………五〇

地文……………五〇

人文……………五二

處誌……………五三

中央亞細亞……………五九

高加索……………六〇

設問……………六一

第四章 印度支那

地文……………六一

人文……………六二

處誌……………六三

設問……………六六



第五章 馬來群島

地文……………九六

人文……………七〇

處誌……………七一

設問……………七四

第六章 印度

地文……………七四

人文……………七六

處誌……………七九

設問……………八三

第七章 イラン地方

設問……………八六

第八章 亞細亞土耳其

八六

目次

地文……………八六

人文……………八七

處誌……………八八

設問……………九〇

第九章 亞刺比亞

地文……………九〇

人文……………九一

設問……………九二

第十章 總論

地文……………九二

人文……………一〇四

設問……………一三

目次終



訂三地理學教科書外國之部上卷

理學博士 小川 琢 治 著

第一編 滿洲

第一章 關東州

地 文

面積二一九方里

遼東半島の南西部を占め、直隸海峽を隔てて山東半島に對し、普蘭店より貔子窩附近に至る線を以て盛京省に接す。長白山脈の支脈、北東より南西に走りて形づくれる幅狭き丘陵性の地にして、平地甚だ少く、海岸は屈曲に富み、金州地峽の兩側に金州灣大連灣あり、南端に旅順港あり。又、西に五

海洋島附近は日清戦役の大戦場なり。

島あり、東に長山列島分布し、海洋島その南端に位す。氣候は同緯度の奥羽地方よりも寒く、冬は港灣氷結し、雨量も一般に少し。但し夏季は暑熱甚しく降雨多し。

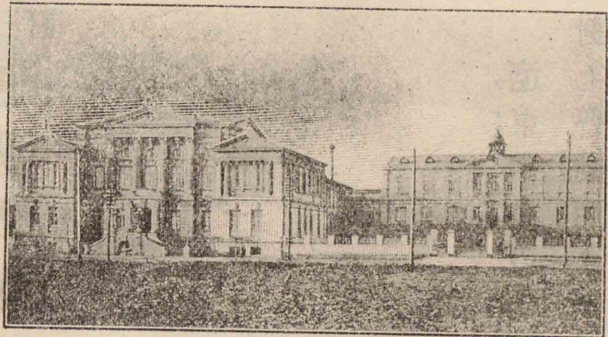
### 人文

日清戦役の結果、遼東半島は一旦我が領有に歸したりしが、露・佛・獨三國の干涉によりて還附せり。然るに、其の一部なる關東州は滿洲の門戸をなし、軍事・商業上極めて樞要の地なるを以て、間もなく露國は支那より之を租借し、巨費を投じて設備を整へたれども、日露戦役後、我が國は彼に代りて租借權を繼承し、滿洲利源の開発に力を盡すに至れり。

第一圖

南滿洲鐵道會社

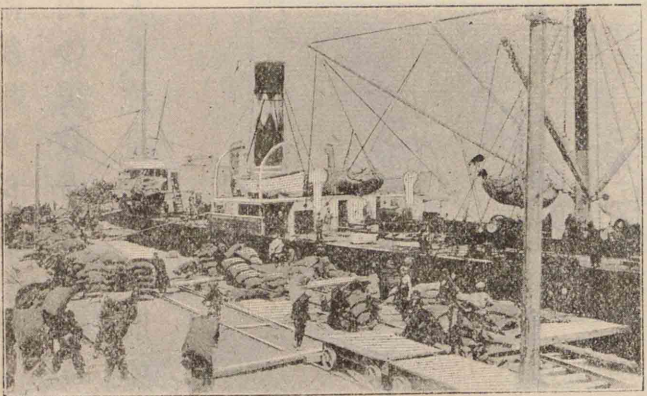
露國の租借は明治三十一年より向ふ二十五年間の約なりしが、大正四年に至り明治三十一年より九十九年と改約せられたり。關東州の北方遼東半島の大部分は關東州保安の爲中立地帯とし、支那は獨りに此の處に兵を入るを得ず。



第二圖

大連の棧橋

大連は人口四萬餘邦人約二萬あり、露西亞人は此の地をダルニイといへり。



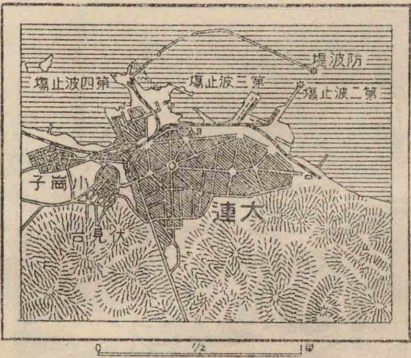
地域狭く、平地少く、高粱の外特種の産物なしと雖も、漁業・製鹽業共に有望にして、大連に豆糟・煉瓦の製造所あり。

此の地は我が國と滿洲との交通貿易の要衝に當り、陸には南滿洲鐵道ありて、西比利亞及び支那本部の鐵道と連り、海上は内地・朝鮮・支那諸港との間に汽船の往來繁し。人口凡そ五十五萬、支那人を主とし、本邦人は約七萬あり、多くは、大連・旅順に住して軍政・商業に従事し、教育も漸く普及せんとす。我が國は旅順に關東都督府を設けて、城内の軍事・民政を司り、南滿洲鐵道及び其の

沿線地の保安に任じ、更に大連・旅順に民政署を置きて、各管内の民政を分掌せしむ。又關東州海軍區を定め、旅順を要港とし、佐世保鎮守府の所管に屬せしむ。

處誌

第三圖  
大連市街  
大連門司間は六百十五哩、汽船にて航海二晝夜を要す。



大連は南滿洲鐵道の起點にして、もと露國の經營に成り、市街・港灣の設備よく整ひ、規模宏大なり。滿洲と我が内地・朝鮮及び支那本部との通過貿易盛に行はれ、大豆・豆糟・豆油・石炭を輸出し、綿布・木材・酒類を輸入す。南滿洲鐵道會社あり。

旅順は丘陵幾重にも取り圍みて自然の城塞を作り、行政・軍事の中心地たり。港は東西に分れ、東は要港にして狭く、西

旅順に我が工科學堂あり。

爾靈山險豈難攀、男子功名期、  
克難、鐵血埋、  
山山形改、萬民、  
齊仰爾靈山。  
乃木希典

は商港にして廣し。鐵道、臭水子より岐れ來る。日清・日露の兩戰役に、我が同胞が鮮血を流せる處多く、二〇三高地・松樹山・東鷄冠山・港口等名高し。  
金州は古き都會にして、大黒山(天和尙山)其の東に聳え、附近の南山は日露役の激戰地なり。

設問

- 關東州の位置・氣候・産業につきて語れ。
- 大連及び旅順の特色を述べよ。
- 關東州は經濟上・軍事上如何なる價値あるか。

第二章 東三省

地文

位置境域 滿洲は支那本部の北東に位し、北は黑龍江を以て西比利亞に境し、東は西比利亞の沿海州及び朝鮮に接

面積六萬方里人  
口約千六百萬

	面積	人口
盛京省	15191方里	1016萬
吉林省	13191方里	422萬
黑龍江省	35280方里	160萬

し、南には遼東半島斗出して、内に遼東灣を抱く。域内は盛京、吉林、黒龍江の三省に區分せらるるが故に東三省とも稱す。古は更に北と東とに廣かりしが、露西亞に割與したるため、今は我が國の一倍半に過ぎず。

地勢

長白山脈と興安嶺との間には、廣漠たる滿洲平野

横はり、平野は中央の分水界によりて南北兩斜面に分れ、其の北部は松花江の流域にして、嫩江を併せて黒龍江に入り、南部は遼河之を潤して渤海灣に注ぎ、地勢自から南北に分れ、滿洲の主要部を形成せり。

氣候

大陸性にして寒暑共に烈しく、雨量も多からず。されど夏季は大雨屢來りて、泥濘道路を没し、交通を妨げ、冬季は河川海岸概ね氷結す。

人文

産業

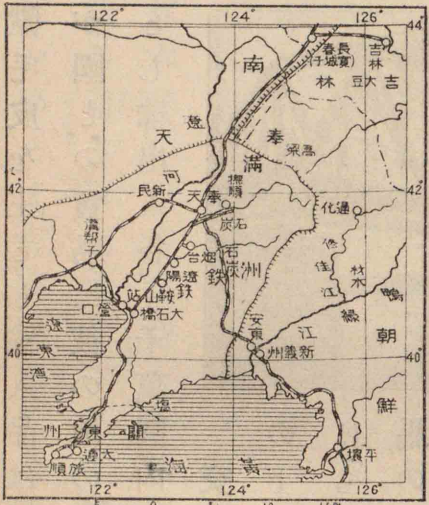
沃野廣濶なるを以て、農業は實に滿洲の生命なり。南部には大豆・高粱・玉蜀黍等の産出夥しく、遼東半島には柞蠶絲を産す。北部は小麥多く、其の他麻・煙草・人蔘等を出す。高粱は常食の外、燒酎を製し、藁を燃料とす。又大豆より油及び糟を製し、小麥より麥粉を造る。工業も年を逐うて盛大に向ふ。牧畜は古來よく行はれ、牛羊の産少からず。鑛業、殊に石炭採

掘林業、近時俄に勃興し、諸種の富源は普く世人の注目する所なり。商業は未だ發達せざれども、都會には多く市を開きて交易に便し、對外貿易は輸出入總額二億圓に上り、輸出品は大豆・豆糟・豆油・穀物・柞蠶絲・小麥・石炭

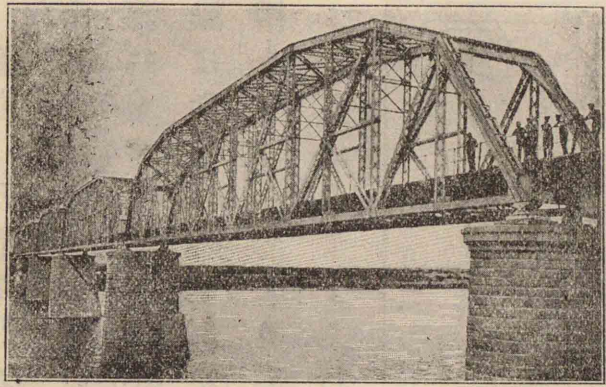
第四圖

滿洲の交通及物産

我が總領事館所在地  
奉天・間島・哈爾濱  
領事館所在地  
安東・營口・遼陽・鐵嶺・長春・吉林・齊齊哈爾



獸毛皮を主とし、輸入品は綿布・綿絲・金屬器・毛織物等なり。我が國との貿易は彼の地の豆糟・豆類と、我が綿布・綿絲とを主とし、輸出入各、一千萬圓内外なり。



第五圖  
ハルビン  
の  
鐵橋

交通 道路は不完全なれども、大河の下流には汽船を泛し、支那船は上流にも溯る。冬、春は河道凍結して、氷上車馬の往來自由なり。北滿洲を横斷して滿洲里より浦鹽斯德に至る東支那鐵道は、露人の經營する所にして、西比利亞鐵道に連り、其の支線は哈爾濱より長春に達す。我が南滿洲鐵道は之に連り、奉天に至りて安奉線を分ち朝鮮の縦貫線に接續せしめ、本線は南走して

第六圖  
滿洲婦人



京奉鐵道は英國の資本に成りしものにて、奉天より新民府を経て北京に通ず。海上には大連營口を中心とする航路あり、今や交通頗る便利となり、久しく閉ざられし寶庫も漸く開かれんとするに至れり。

住民 人口凡そ千六百萬あり、其の大部は漢族にして、支那本部の北方諸省より移住し來りて農商業を營む。滿洲人即ち通古斯族は主に東北部に住し、極めて少數にて漁獵牧畜を事とす。尙ほ西部には蒙古族の遊牧するあり、南部の國

大連に通ず。又吉長線は日支の合辦に係り、長春・吉林を連ね、將來朝鮮の會寧に延びんとす。(吉會線)

境附近には朝鮮人の農業を営むもの多し。

政治 支那本部と同じく、各省に省長・督軍を置きて民政・軍事を總べしむ。此の地は古我が國に朝貢せし渤海國の故地にして、清朝は此處に起りて二百六十餘年間支那を統治せり。露國は國境を接する關係上、早くより滿洲に着目し、漸次之を蠶食せんとせり。我が國は朝鮮治安の爲に、近年兩度南滿洲に戦ひ、遂に露國に代りて關東州を租借し、南部に於ける鐵道・鑛山等の利權を得、近時東蒙古の鐵道敷設權をも獲たり。邦人の在留者も己に十萬に近く(關東州在留民を加へ)、尙ほ國境附近には朝鮮人數十萬あり。されど北滿洲には露國の勢力尙ほ盛なり。

處 誌

盛京省は又奉天省とも云ひ、南滿洲の大部を占め、東三省

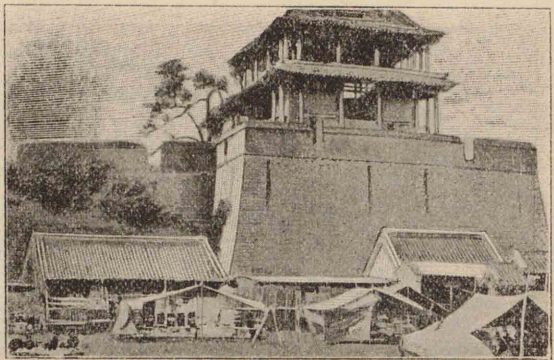
本溪湖の石炭及び其東南なる朝兒溝の鐵礦採掘は、日支合辦事業なり。

第七圖

奉 天 城

奉天に我が南滿醫學堂あり。奉天大會戰は明治三十八年三月十日に行はれ、露軍の死傷十三萬六千、我が軍は僅に四萬一千なり。

奉天・大連間 二四七哩  
急行七、五〇  
奉天・安東間 一七〇哩  
急行六、四〇  
遼陽に我が守備隊を置く。



中最も開けたる所なり。省城奉天は平野の中央にあり、大なる城壁を繞らし、四通の要區に當り、大豆・獸皮等の集散盛に行はれ、人口二十萬に近く、滿洲第一の都會なり。此の地は清朝祖先の舊都にて、尙ほ其の遺跡を存し、附近には宗廟あり。遼陽は市況奉天に次ぎ、鐵嶺と共に軍事上の要地なり。此の邊一帯、日露の戦地として名高し。撫順、烟臺、本溪湖の石炭は我が國

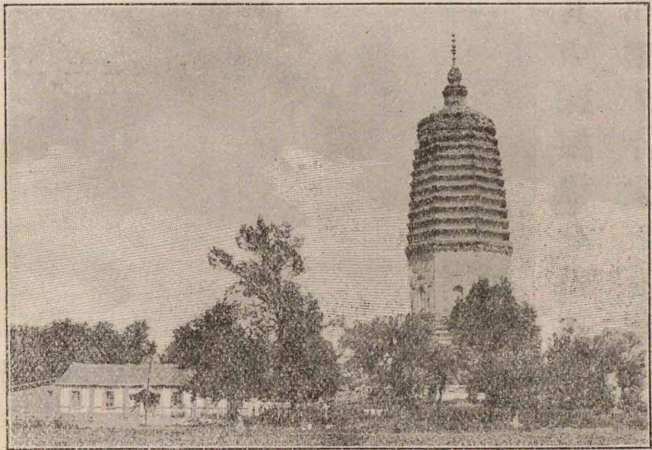
其の採掘權を得、殊に撫順炭田は廣さ東西數里に亙り、世界屈指の厚炭層を藏し、採炭の規模東洋第一と稱せらる。馬蜂溝は鐵嶺の河港をなし、通江口は遼河舟運の極點にして、豆類の市場なり。通江口に近き法庫門は蒙古との交易場なり。

滿洲都會人

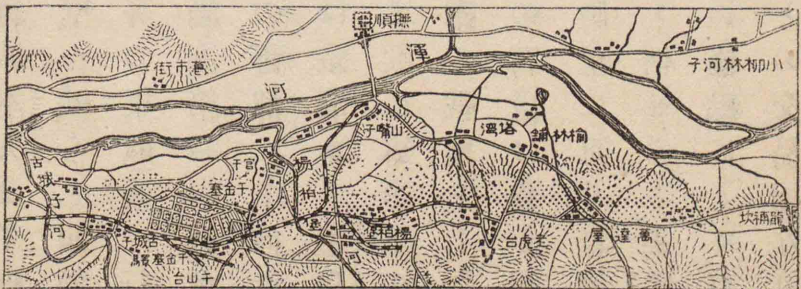
奉天 吉林 齊齊哈爾 哈爾濱 營口 安東 遼陽 東陽 牛莊 營口 鴨綠江上流地の木材は日支兩國共同の經營によりて伐採す。

第八圖(下) 撫順炭田

第九圖(上) 遼陽の白塔



營口は遼河の河口に近く、冬季の氷結と港内淺さとの缺點あれども、南滿洲鐵道及び京奉鐵道の支線ありて、水陸の交通便なれば、貿易盛にして、豆糟大豆・豆油・柞蠶絲を輸出し、大連と競争の地位にあり。安東はもと沙河鎮といひ、鴨綠江の下流に在り、朝鮮の新義州と對



し、交通商業の要點を占め、材木・柞蠶絲・大豆を輸出す。大東溝は安東の南に在りて鴨綠江口に當り、朝鮮の龍巖浦と相對す。

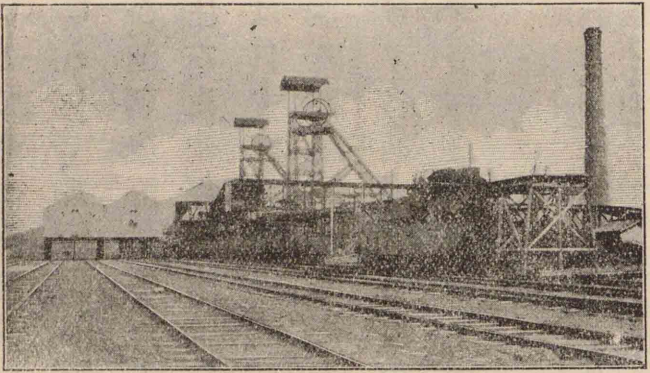
す。

吉林省は位置及び人口何れも三省の中位にあり、東半は山林廣く、北西は北滿洲の平野なり。吉林は省城にして、松花江に沿ひ、近傍に材木・煙草・人蔘の産多し。長春は一に寬城子と稱し、南滿洲・東支那兩鐵道の接續點にあり。大豆の取引頗る盛なり。哈爾濱は東支那鐵道の分岐點に當り、松花江に沿ひ、重要な位置を占め、露國は新に市街を開き、製粉・釀酒等の工業を興し、守備を嚴

第十圖

撫順炭坑の東郷坑

大連・長春間四百三十六哩、汽車急行十四時間半にて達す。





問島龍井村に我が總領事館あり。

にして、北滿洲經營の策源地とせり、Sanxing三姓、Beidun伯都訥は、その東西にありて、共に商業盛なり。東方山間の寧古塔Zhigutaは牡丹江に沿ひ、清朝發祥の地にして、朝鮮の境に近き間島は朝鮮人多く住み、我が貨幣流通す。先年、領屬問題にて知られたる處、琿春は日・支・露三國の境に近き要地なり。

黑龍江省は地域廣大なれども、山地、草原多くして耕地開けず、省城齊齊哈爾Qiqiharの近傍稍、穀類を産し、興安嶺中に金を出す。愛琿Aigunは邊境の要處にして舊城あり。

設問

- 南滿洲北滿洲の主要部とは如何なる地方を指すか。
- 滿洲各省及び省城の名を示せ。
- 滿洲の交通圖を作れ。
- 間島とは何處か、又何によりて名高き處か。
- 滿洲の産業は如何。
- 滿洲の貿易は如何なる港によりて行はるか。
- 奉天が滿洲第一の都會なるは何故か。
- 南滿洲鐵道會社の事業を問ふ。

第二編 亞細亞洲

第一章 緒論

面積約二九〇萬方里  
東西二四〇〇里  
南北二一〇〇里  
亞細亞と歐羅巴とを合してユーラシア大陸と云ふことあり。

亞細亞洲は東半球の北部を占め、北は北極洋、東は太平洋、南は印度洋に面し、西は歐羅巴洲に連り、西南の一部スエズ地峽によりて亞弗利加洲に續き、東北はベーリング海峽を隔てて北亞米利加洲に對す。面積は世界陸地の三分の一に當り、地球上最大の大陸なり。歐羅巴洲の如きも實は本洲の一半島に過ぎず。其の南部は赤道直下に達し、北部は遠く北極圏内に到る。されば高山、大河、廣野、沙漠等多く、奇異なる動物も少からず。人口は世界住民の半數に餘り、地文、人文の複雑なる、他に其の比を見ず。世界最古の文明多く此處に萌し、世界の大宗教も凡て本洲に起れり。されど今は歐米諸國

の勢力下に伏せる處少からず。

### 第二章 支那

#### 地文

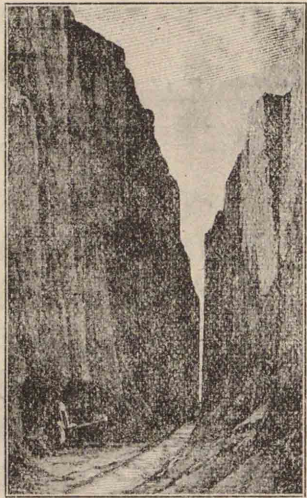
**位置境域** 亞細亞洲の中部より東部に亙り、廣大なる地域を領有し、北と西とは露領亞細亞に境し、東は我が朝鮮に隣り、又黃海・東及び南支那海に臨み、南は印度支那及び印度に接す。面積約六十六萬方里ありて歐洲全土よりも廣く、英佛・露に次ぎ、世界第四の大國なり。

**地勢** 北西南の三方は諸大山系に圍まれ、國の西半はすべて高原地にして、東半は平野廣し。支那本部は秦嶺・支那山系によりて、自から北・中・南の三部に分れ、三大河之を貫流す。黃河は長さ千餘里、源を青海地方の中部崑崙Kuonlunに發し、陰山の

黃河は又單に河とも稱せらる

第十一圖

黃土の景



南を迂曲して平野に出で、北東流して渤海に注ぐ。此の河の流域は大抵黃土と稱する脆弱なる土壤に蔽はれ、肥沃なれども、浸蝕を受けて絶壁をなせる處多く、河水黃濁し、洪水の害夥し

江又は大江・長江ともいふ。黃河と最も接近せる所は六十里を隔つるのみ。

く、舟運の便を缺く。下流は古來河道屢變遷し、夥しき沖積土を作れり。揚子江は長さ千三百里、世界第四の長流にして、西藏高原の東北部に發源し、數多の支流と洞庭・鄱陽其の他數多の湖沼の水とを容れ、東支那海に入る。支那本部の大動脈にして、流域は實にその半に當り、物産豐饒に、舟楫の利甚だ多く、中流以下よく大船を通ず。上流四川地方は大盆地をなす。珠江は支那山系の南を東流し、本流を西江といひ、北江・東

江を合せて南支那海に注ぐ、水利頗る大なり。滿洲には黑龍江、遼河あり。内陸の諸河は塔里木河の外重要ならず。海岸は半圓狀をなし、多少の出入あれども、面積に比すれば短く、山東、雷州兩半島、海南島稍著し。

**氣候** 土地廣ければ、氣候一樣ならず。支那本部の中部は稍溫和にして、南部は熱帶性を帯び、共に春夏降雨少からず、其の海岸には初秋の頃、屢大風襲來す。黃河以北及び滿洲は寒暑烈しく、冬季河水凍結し、風力強し。西・北高原は純大陸性氣候にして、雨量極めて少く、空氣乾燥す。

### 人文

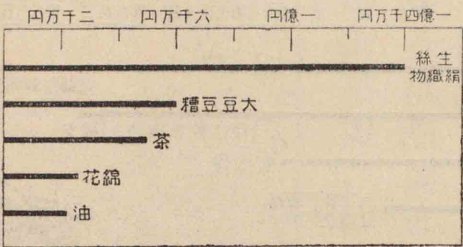
**産業** 概ね小規模にて、僅に原料品・粗製品を出すに過ぎざれども、其の種類と分量との多大なる驚くべく、尙ほ又地下に埋もれ、荒野に横はり、空しく採收を待つもの幾何なる

第十二圖

支那主要輸出品價額

絹は世界の原産地として、早く西洋人に知られたる。

山西の蓄炭量は二千年間世界の需要を充たし得べしといふ。

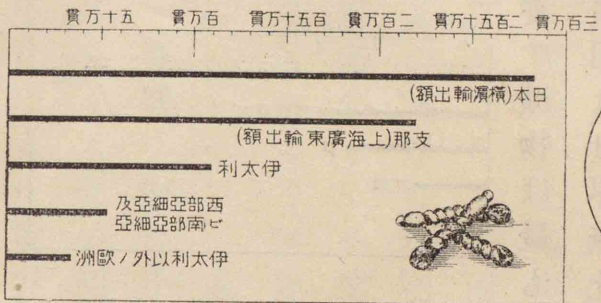


を知らず、支那産業の前途は實に多望なりと謂ふべし。農業は古來最も盛にして、支那本部の黃河以南の平野には水田多く、米産豐に、又茶・綿・甘蔗・生絲・阿片の産も世界に名あり。河北及び滿洲には畑地廣くして、大豆・小麥・高粱に富む。牧畜之に次ぎ、北部及び高原地方には馬・驢・騾・山羊・羊・牛・駱駝・犛牛の遊牧盛にして、中部・南部には豚・水牛・牛・鶏を飼養す。鑛物は最も豊富にして、山西・河北・江南地方の廣大なる炭田は、世界無比の稱あり。鐵も之に伴ひて多く、金・銀・銅・錫・鉛・水銀・岩鹽等の産も少からず、されど、現に採掘せるは其の一部分のみなり。其の他崑崙の玉、福建の蠟石、雲南の大理石等は古來名あり。造船・紡績・製鐵等の近世的大工業は、中部地方

第十三圖

世界生絲產額比較

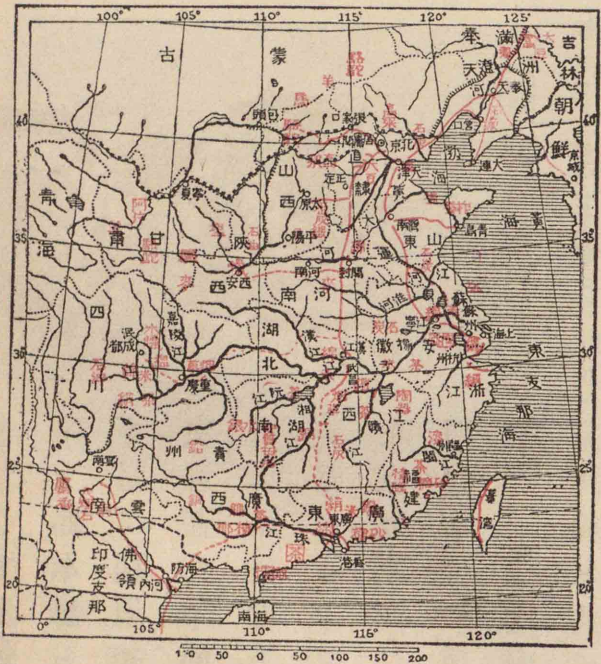
輸出總額は五億六千萬圓以上に於て、生絲絹布はその四分の一に近し。輸入總額は七億餘圓にして、綿布綿絲正にその三分の一に當る。出入共に香港を最とす。



に萌芽を出せるのみなれども、工藝品は最も精巧にして、殊に江浙四川の繻子・緞子・紗・山東の繭紬等の織物、江南諸省の陶磁器・漆器、廣東の銀器・籐器・地蓆などは有名なり。商業は國人の特に長ずる所なれば、内外ともに頗る活潑なれども、貨幣制度の區々なると釐金税により、不便少からず。天津・漢口・廣東は内外商業の中心市場をなし、特に外國貿易は上海・香港を最とす。輸出品は生絲・絹織物・茶・大豆及び豆糟・生皮・綿を主とし、輸入品には綿絲・綿布・阿片・石油・材木・水産雜貨等あり。此の中生絲は多く佛國に、茶は主に北米合衆國

第十四圖

支那交通及び物産圖



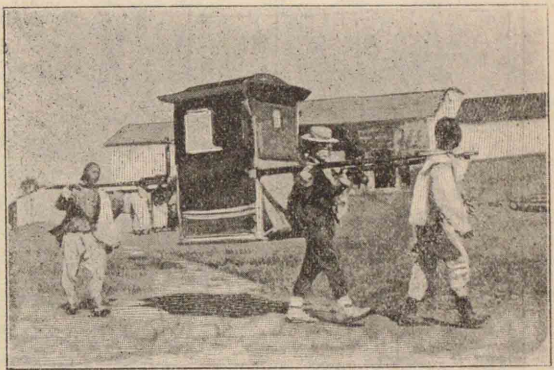
に、磚茶は露國に賣られ、綿布は英國より、阿片は印度より買はる。取引國は英國(印度を含む)を第一とし、我が國合衆國・佛露獨諸國之に次ぐ。

我が國との貿易は年々盛大に赴き、我より綿絲・銅・石炭・燐寸・水産物等を輸出し、彼より繰綿・羊毛・大豆・豆糟等を輸入す。

**交通** 南船・北馬の語は、よく此の國交通の概況を説明せり。秦嶺以南は河川・湖澤相通じ、舟運の便多けれども、以北は

第十五圖

轎



主として馬・驢・騾・駝等によりて往來す。支那本部と滿洲には一輪車・馬車・轎等盛に利用せらる。されど内陸地方は交通甚だ不便にして駱駝・犛牛等の助による外なし。近年、日・露・英・獨・佛人等の經營によりて鐵道敷設せられ、南滿洲・東支那・京漢・汴洛・津浦鐵道の外、山東(青島)・滬寧(上海寧波)・京奉(北京奉天)・京綏(北京綏遠)・京滬(北京上海)・大張(大張口)・同府(同州府)・豐鎮(豐鎮)・雲南鐵道等あり、又粵漢鐵道も已に起工せられて、京漢線と共に支那南北を縱斷し、長江の水運と交りて、國內開發に資せんとし、津浦線は滬寧線と相連り、大運河を壓倒せんとし、雲南鐵道は印度支那の海防より來りて雲南府に達す。此の他、川漢鐵道(漢口成都)等計劃中

第十六圖

苗族の婦人

外國移住民三〇  
○萬あり、外に  
我が臺灣に略同  
數の移民あり。  
支那在留外人數  
日本人 五五〇〇  
露人 四五〇〇  
英人 八七〇〇  
米人 三七〇〇  
佛人 三三〇〇  
獨人 二六〇〇  
葡人 二六〇〇



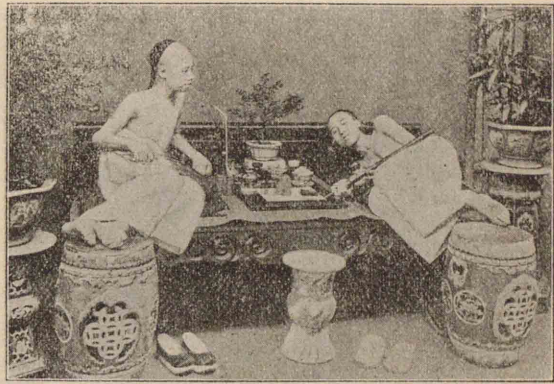
のもの多し。海陸の電線漸く延長し、沿海及び内陸水路の交通も次第に頻繁となり、揚子江及び西江は其の幹線をなす。上海・香港・廣東等は世界的の要港にして、我が日本郵船大阪商船・日清汽船各會社、支那の招商局及び英獨等の汽船は盛に往來せり。

**住民** 人口凡そ三億二千萬ありて、世界人口の五分の一に當る。大部は支那本部に住み、就中、海岸・諸大河下流の平野は戸口稠密なり。海外移住民も多く、殊に暹羅・馬來群島等に多し。性忍耐勤儉にして、商機に敏に貨殖に長ずれども、

第十七圖

阿片吸食

山西・陝西の山中には穴居の民少からず。



高雅・道義の念と愛國心とに乏し。人種は蒙古種にして、漢族は全人口の九割を占め、主として支那本部に住し、此の地方の原住民たる苗族は南西山中に蟄伏す。通古斯族は滿洲に多く、蒙古族は蒙古及び天山北路に、土耳其族は天山南路に、西藏族は西藏・青海に住す。風俗は地方によ

第十八圖

纏足せる婦人

りて大差あり、蒙古・新疆人は天幕に住めども、漢族は多く土造の家を有す。漢族の男子の阿片を喫すると女子の纏



足をなすとは二大弊習なりしも、近時漸く改まらんとし、辮髪も滿洲朝の没落と共にすたれつゝあり。言語・文字も各族の差は勿論、支那本部の公用語たる官話にも北京南京の別あり。地域廣漠にして人種・言語・風習かく雜駁なるを以て、國民の統一困難なり。

**教育・宗教** 從來の教育は官吏養成を主としたりしが、近年改良して北京大學堂以下各種の學校を興し、我が國及び歐米の學者・教育家を聘して新式の教育を施し、又多くの留學生を各國に派遣せり。宗教は支那本部には儒教・道教・佛教等行はれ、蒙古・西藏及び滿洲の一部には佛教の一派なる喇嘛教盛にして、新疆及び支那本部の西部には回教行はる。基督教の勢力亦侮るべからず。

**政治** 支那は數千年來、君主專制の國體なりしが、近年革

國務院は我國の内閣に當り國務院總理は外交・内務・財政・陸軍・海軍・教育・農商・交通・司法各部の總長と共に國務を總理す。

命の思想擴がり、滿洲人に對する漢人の反感と結び、遂に清朝を覆滅して中華民國となし、大總統を選びて行政權を委ね、其の下に國務院及び各部を置きて庶政を掌らしめ、各省の代表者より成る參議院、人民より選出せられたる議員より成る衆議院を以て國會とし、立法權を行はしむるも、内憂外患交、臻りて、政府の基礎未だ鞏固ならず。地方政治は從來領内を直省と藩部とに大別し、直省は更に支那本部の十八省と東三省・新疆省とを加へて二十二省とし、總督・巡撫をして文武の政を統べしめ、蒙古・青海・西藏は藩部として理藩部之を監せしが、今各省には省長・督軍を置きて民政・軍務を統べしむるも、藩部に對しては政令漸く行はれざるに至れり。陸海の軍制は未だ統一せず。

世界最古の文明地方は、今日衰微の極、多くは他國の領有

に歸せるも、支那は尙ほ東亞の大國として獨立の體面を維持せり。良好なる位置と、溫和なる氣候と、沃饒なる廣野と、夥多の民衆とを併有せるを以て、政府の施設、國民の活動、その宜しきを得ば實に恐るべき富強を來すべき素質を有せり。然るに國人概ね自尊、保守の念強かりしを以て、次第に世の進運に遅れ、加ふるに近時騷亂相次ぎ、國力萎微せるに乗じ、列強は或は沿岸の要地を占領し、又は互に勢力範圍を分ち、諸種の利權を獲得せしめたため、國民漸く覺醒し、一大革新を實施しつゝ、あれば、成功の曉には我が國と相並びて、東亞の平和、世界の文明の爲に大に盡す所あるべし。

處 誌

一 支那本部

北部

主として陰山・秦嶺間の黃河流域に屬し、直隸・山東・

Chili Shantung

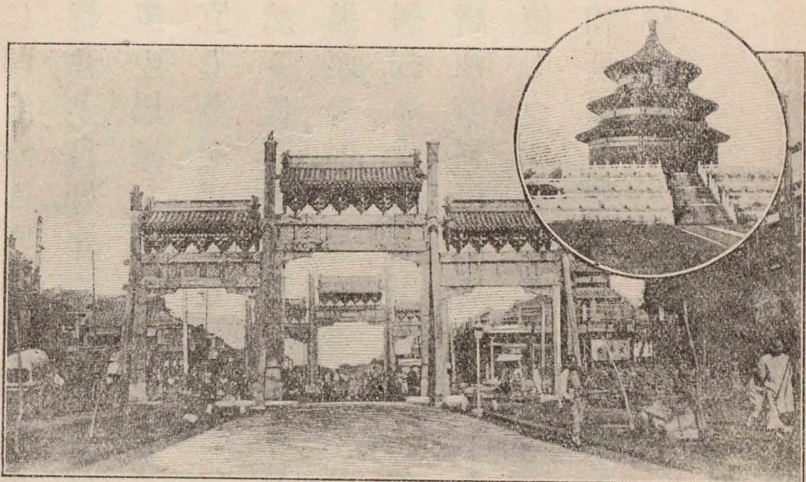
秦嶺の東は伏牛山となり、平野に没す。

支那本部

面積 一五七〇〇方里  
人口(一九二三年) 三〇〇〇萬

人口	2297萬
2582	941
2238	673
673	381
381	
面積(百方里)	194
94	137
137	114
114	126
126	212
212	

第十九圖  
北京市街と天壇



山西・河南・陝西・甘肅六省を含み、  
Shansi Henan Shensi Kansu  
河下流の平野は、東、渤海灣に臨み、  
南、中部の沃地に開き、戸口稠密に  
して小麥、大豆等を産し、交通便な  
り。其の他は概ね山地、丘陵にして  
人煙少く、甘肅は殊に僻遠なり。渭  
水附近の西安盆地の富饒なると、  
山西炭田の廣大なることは注意  
すべし。山東の住民は古より海事  
思想に富み、遠航移住者多く、山西  
人は商業に巧にして富豪少から  
ず。概して、北部は地味、氣候、産業、交  
通等何れも中部地方に劣り、古來

物資の補給を常に彼に仰げるにもかゝらず、歴代の國都・  
史上の名蹟多くこの中に含まるゝは、實に漢族發展の故地  
にして、由來久しければなり。

北京は全國の首府にして、規劃宏大なり。内外二城に分れ、  
Peking  
内城には舊皇城紫禁城といふ及び諸官衙ありて壯麗なれども、  
外城の商區は甚だ不潔にして雜沓し、街路整はず。之より鐵  
道四方に通ず。有名なる萬里の長城は、東、山海關に起り、山を  
踰え谷を涉りて延長八百里、西、甘肅省の嘉峪關に至る。その  
元は秦の始皇が北の匈奴を防ぐ爲に築きしに始まる。北京  
の北西に近く居庸關張家口あり、共に長城の要路に當り、前  
者は六國語の經文を刻せる門石を以て著はれ、後者は蒙古  
との間に羊毛・皮革の取引盛なり。天津は北支那の門戸をな  
せる開港場にして、白河の下流にあり。羊毛・磚茶を輸出し、市

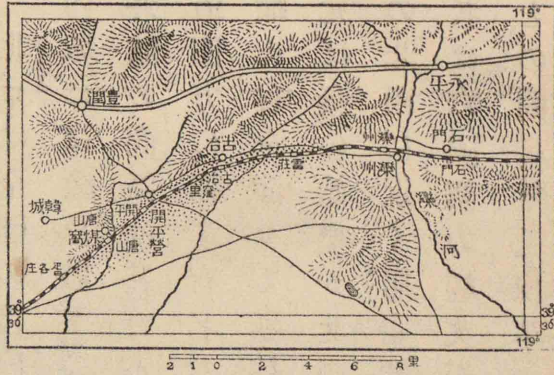
北支那都會人口  
天津 六、〇〇〇  
北京 六、〇〇〇  
蘭州 五、〇〇〇  
西安 四、〇〇〇  
開封 三、〇〇〇

北京・天津間 八七哩  
北京・漢口間 七五〇哩  
(東京・下關間 七〇五哩)



河より五十哩我總領事館あり。長崎・天津間 七八〇哩 天津・浦口間 (津浦線) 六二八哩 天津港(一九二) 輸出總額 五五〇萬圓 輸入總額 六〇〇萬圓

第二十圖 開平炭田



泰山の高さ 一五〇〇米

濟南は山東の省城にして交通の便よく、泰山は名山として著はれ、曲阜には孔子の廟墓あり。芝罘は煙臺ともいひ、渤海の要港なり。

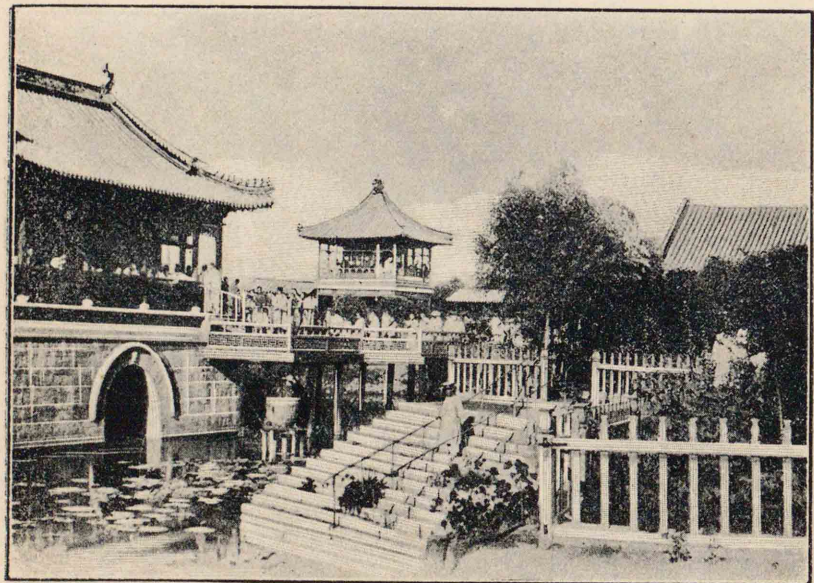
街繁盛なれども、冬季は結氷し、又大船は太沽の沖に碇泊するの不便あり。大運河は長城と共に支那の二大工事といはれ、天津より黄河揚子江を横ぎり、南方浙江省杭州に達す、全長約三百里、世界最長の運河なり。隋の煬帝以後數朝の間に成り、送穀に便せしが、近代海運と鐵道との開けしため利用減じ、閉塞せる所少なからず。開平には大炭坑あり、秦皇島は渤海灣唯一の不凍港なり。

第一版

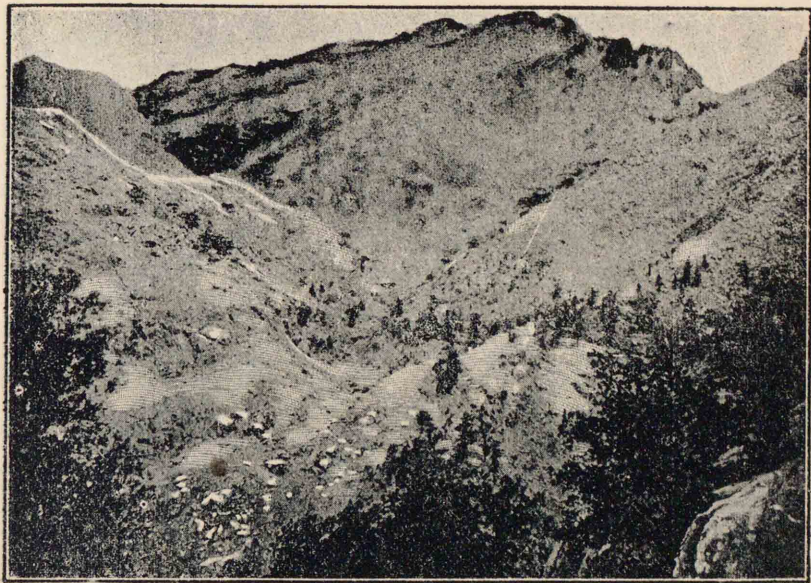


大運河

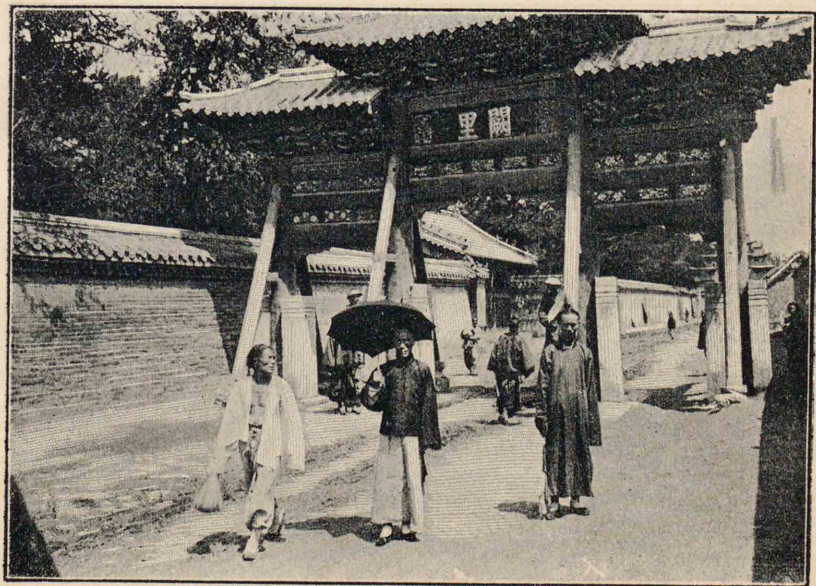
第二版



天津の李鴻章廟



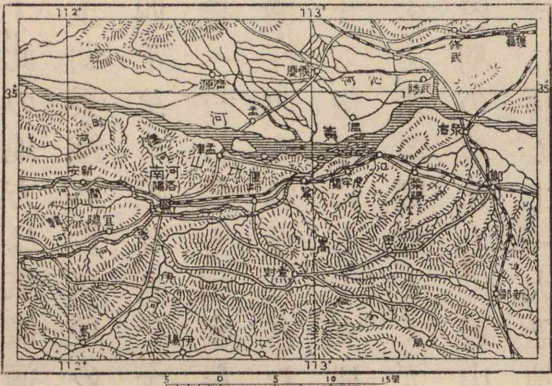
山 秦



廟子孔の阜曲

開封は黄河の屈曲點にして其の河底よりも低き故洪水多し。

第二十一圖 洛陽附近



山西の省城太原は京漢鐵道の支線通じ、附近に鐵・石炭・岩鹽を産す。

蘭州は中部亞細亞交通の要衝に當り、壯大なる省城あり。其の西方の西寧には、青海の鎮將駐在す。

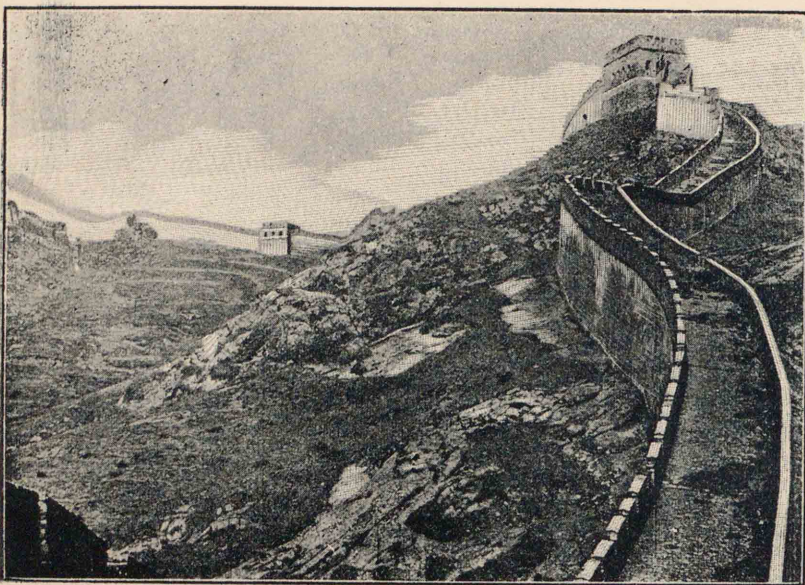
面積(百方里)	人口(萬)
65	1538
62	1395
92	408
117	1626
120	2126
140	2058
367	5450

省省省省省省省省  
蘇江徽西湖北湖南川  
浙安江湖南湖南四  
江浙稔らば天  
下餓ふすとの  
諺あり。  
湖南・湖北は湖  
廣地方ともいふ。

**中部** 秦嶺と支那山系との間に於て、揚子江の流域、沃野千里に連り、Kiangsu Che-Kiang Zhanwei Kiangsi Hupe Hunan Szechuan江蘇・浙江・安徽・江西・湖北・湖南・四川の七省を包括す。此の地方は氣候適順、交通至便にして、米・茶・生絲・煙草・阿片・玉蜀黍・鐵・石炭・諸種の工藝品等の産、極めて饒かに、住民一億四千萬に餘り、實に全支那の生命をなす。江蘇・浙江は江海を控へ、戸口最も稠密、農産多きを以て、古來人文大に發達し、安徽・江西、亦物産に富む。湖北・湖南は漢江・洞庭湖の水の江に合する附近にして、支那本部の中央に位し、土地低平、湖沼河流多く、米穀豐饒、よく天下の形勢を動かすに足る。四川は所謂巴蜀の地にして、連山四周し、岷江・嘉陵江等南流し、長江の本流に會して一大盆地を形成す。

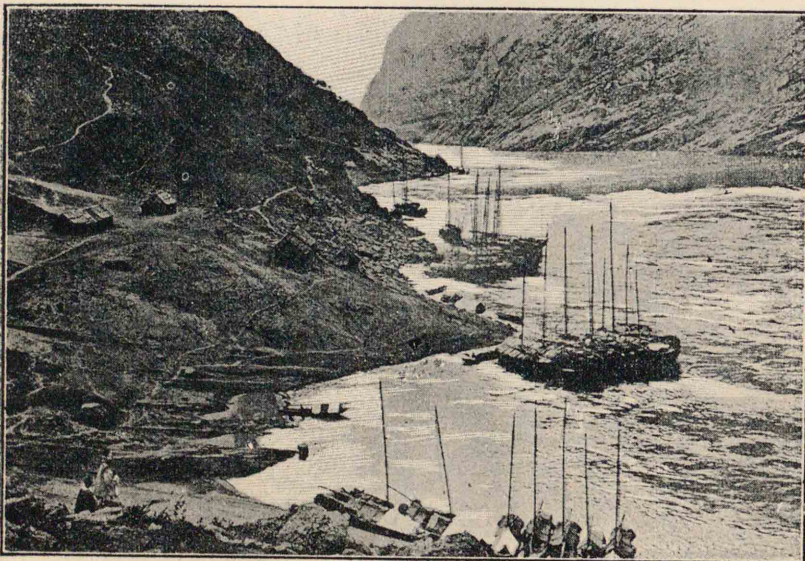
Shanghai上海は東洋第一の貿易港にして、江口に近き、Kwang-Pu Ho黃浦江に臨み、中部支那の咽喉に位して、支那内外航路の集中點に當り、

第五版

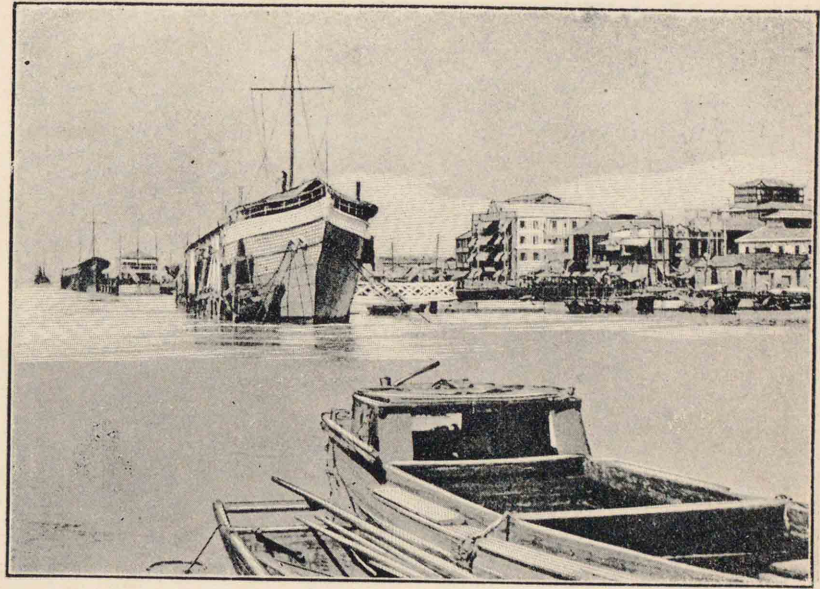


萬里の長城

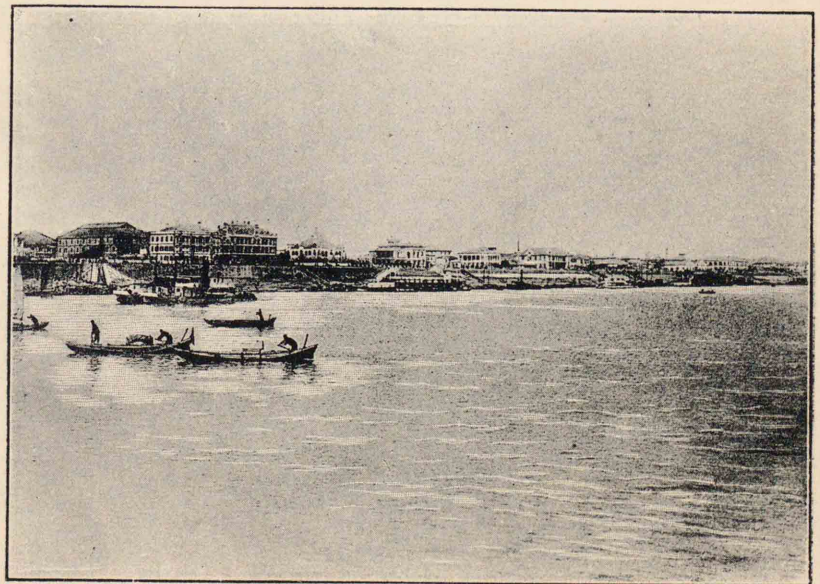
第六版



揚子江の峽流



(關下) 市港の京南



口 漢

出海上入船舶  
 出 九四萬噸  
 入 九二五萬噸  
 同貿易額(一九二〇)  
 出 一〇〇〇萬圓  
 入 一五〇〇萬圓

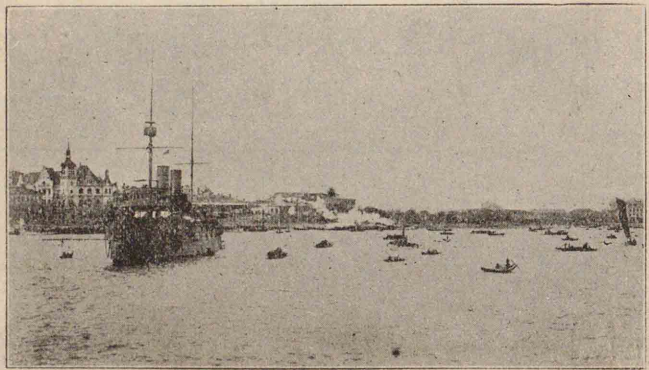
楓橋夜泊  
 月落烏啼霜滿  
 天。江楓漁火  
 對愁眠。姑蘇城  
 外寒山寺。夜半  
 鐘聲到客船。

上海港

中部支那都會の  
 人口

漢口 三三萬  
 武昌 三〇萬  
 漢陽 二〇萬  
 上海 一五〇萬  
 杭州 一〇〇萬  
 蘇州 八〇萬  
 紹興 五〇萬  
 寧波 四〇萬  
 江寧 三〇萬  
 長沙 二〇萬  
 鎮江 一〇萬

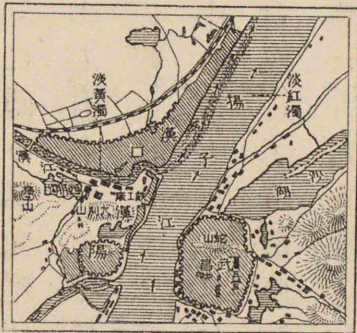
吳淞を其の外港とす、盛に生絲・茶・綿等を輸出し、阿片・綿絲・石炭を輸入す、近時また紡績造船の業大に發達して市況益繁華なり。蘇州は太湖に臨み、風光絶佳にして絹織物の産多し、有名なる楓橋・姑蘇山・寒山寺等その附近にあり。無錫は繭生絲取引の中心にして、鎮江は長江と大運河との會點にあり。農産物及び絹を輸出す。江寧は一に南京といひ、舊都にして、古刹名蹟多く、文華・風流支那第一と稱せられしが、近年數次の戰亂にて、いたく荒れ果てたり、絹布・陶器を産し、機器局あり。對岸の浦口は津浦鐵道の終點なり。



第二十三圖  
錢塘江の海嘯

杭州は古臨安といひ、殷賑を極めしことあり、大運河の終點にして錢塘江に沿ひ、風色に富み、絹の産多し。江口は海嘯の壯觀を以て名あり。寧波は往時繁盛なる港として、我が國と

第二十四圖  
漢口附近



は佳良なる炭田あり。安慶は省城、徽州は筆墨の産にて著はる。  
江西の九江は茶を輸出し、省城南昌は紙を



漢口に我が總領事館あり。  
漢口輸出入總額二億圓。  
漢口は上海より六〇〇哩にあり。  
漢陽の製鐵所及び大冶鑛山は萍鄉炭坑と共に漢冶萍公司の經營に係る。

第二十五圖  
大冶港

宜昌は上海より約一千哩にあり。

産し、景德鎮は陶器を出す。

漢江の長江に入る所には漢口。

武昌・漢陽の三市鼎立せり。漢口は

北京より來る京漢鐵道の終點に

あり。又之より廣東に至らんとす

る粵漢鐵道も工事中にて、交通・商

業の大中心を成し、磚茶・綿を輸出

す。武昌は省城にして革命軍興起

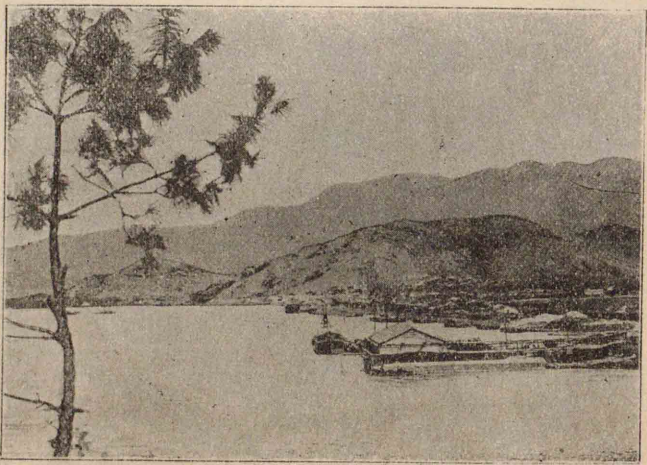
の地、紡績業盛に行はれ、漢陽には

製鐵所・機器局あり。大冶の鐵山は

揚子江岸の黃石港と鐵道を通じ、

鑛石を漢陽及び我が八幡製鐵所に輸送す。宜昌は普通汽船

の終航點にして、揚子江は之より急に狹窄して峽流深灘を



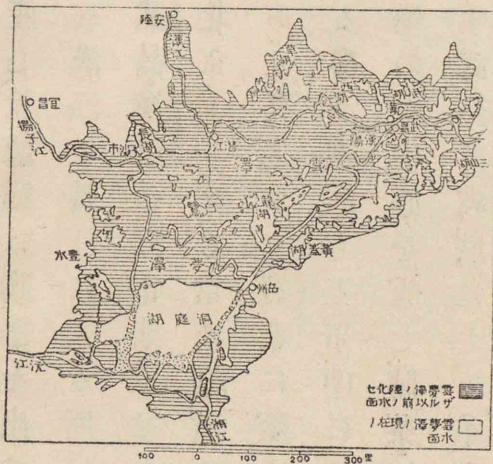
第二十六圖

萍鄉炭坑

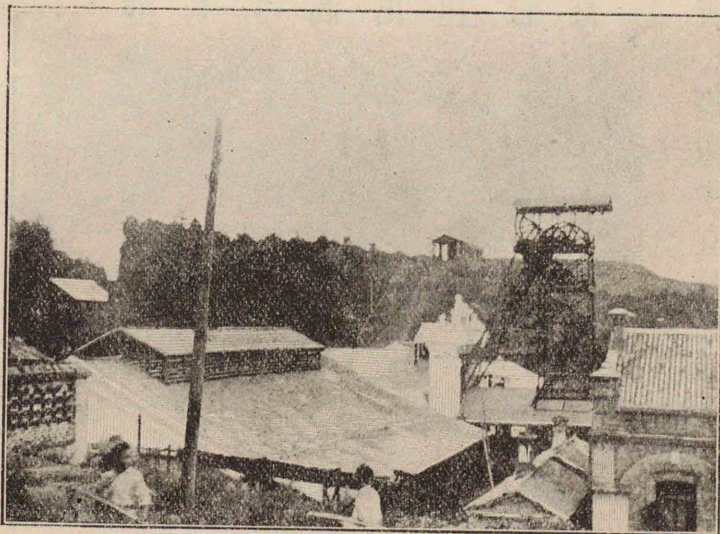
爲し、巨巖峙ち急湍迸りて絶景を呈す。所謂三峽の險是なり。  
洞庭鄱陽其の他の諸湖は長江  
Lunging Poyang  
の水量を調節し、江水の増減に  
よりにて形状面積を異にす。洞庭  
湖は名勝に富み、附近に瀟湘八

第二十七圖

洞庭湖附近



景あり。湘江之注ぎ、岳州口に湖に注ぐ。



第二十八圖

萍鄉炭田

港ありて岳陽樓存す。湖の南方は炭田  
廣く萍郷ヒヤウキヤウの石炭は多く鐵道と水路と  
Pinghsiang  
によりて省城長沙Changshaに運び來る。  
重慶は上海の上流千六百浬、長江上  
Chungking

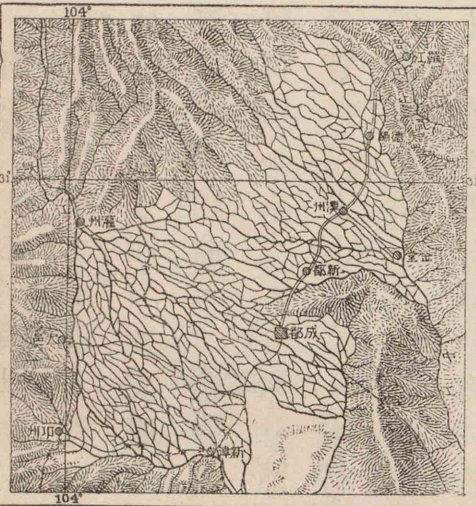
都會人口 萬

成都 四五

重慶 二四

第二十九圖

成都近傍



民殷富なり。成都は  
Chengpa  
四川盆地の中央に  
位し、本盆地最終の湖底なりし  
ものの如く、水路縦横し、商工業  
盛にして市街整美なり。西方打  
箭爐チエンルは西藏に入る門戸なり。  
Tachienlu



人口	856萬
面積	77(百方里)
福建省省	167
廣東省省	130
廣西省省	112
雲南省省	244

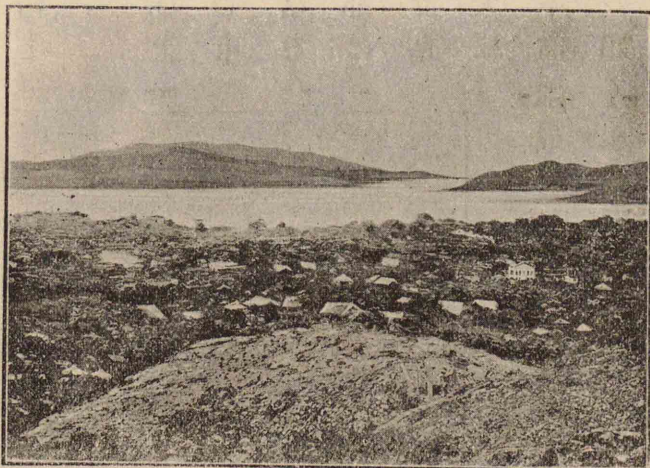
第三十圖

廈門

都會人口 萬  
 廣東 〇  
 福州 〇  
 廈門 三

福建省は臺灣の對岸なれば支那は我が國に對し之が不割讓を約せり。  
 廣東に我が總領事館あり。廣東の輸出入額一億五千萬圓

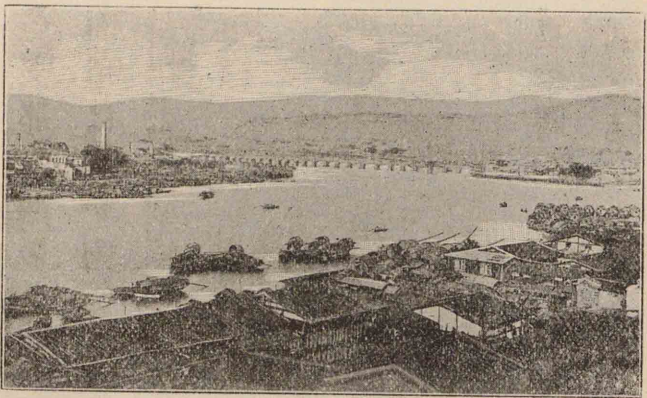
**南部** 支那山系以南、主として西江の流域にして、**福建**・**廣東**・**廣西**・**貴州**・**雲南**の五省に分る。されど**貴州**・**雲南**二省の諸水は、概ね揚子江・印度支那に流出す。海岸は小屈曲多く港灣に富み、平野は廣からざるも、米・甘蔗・麻・茶の産豐に、西方山地より木材・銅・錫・亞鉛・麝香を出す。氣候は半熱帶性にして夏季殊に多雨なるを以て、植物の生育盛なれども、健康に宜しからず。海岸に近き人民は慄悍にして古來海上に跋扈し、山間には苗族住み、未開にして時々叛亂す。



福州・三都澳は茶を輸出し、泉州は史上の名港なり。廈門は

第十一圖

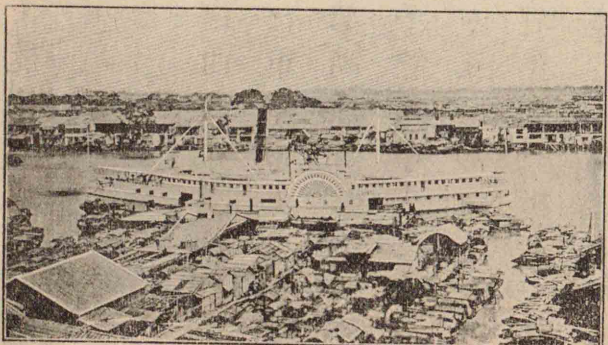
福州



第三十二圖

廣東

出す。九龍・三水との間に鐵道を通ず。海南島には兇惡なる蕃人住み、天蠶絲の産あり。汕頭・北海・三水・梧州等は貿易港なり。

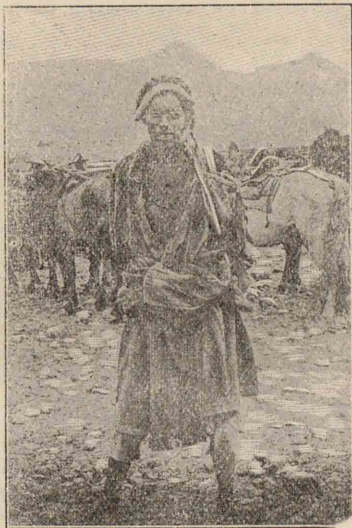


我が臺灣と關係密接にして、茶・砂糖を輸出し、海外移民多く此の港より出づ。**廣州**(**廣東**)は珠江の三角洲に立ち、**南支那**の大都會にして百貨の集散盛行はれ、市民最も商業に長じ、河上の浮舟に住するもの數萬あり、盛に生絲を輸出し、尙ほ絹布を

面積三萬方里  
人口一八萬

第三十三圖

蒙古人



南寧・貴陽・雲南は地方政治の中心にして、Lungchau Mengtze Sunao Teng 龍州・蒙自・思茅・騰越<sup>キョウ</sup>は印度支那交易の要地なり。

二 蒙古 Mongolia

支那本部の北西に位し、北は西比利亞、南西は新疆に接す。面積は我が國の五倍に近けれども、人口は東京市より稍多きのみ。全部高原性にして、平均の高さ千餘米、中央にゴビ沙漠横はる、或は瀚海<sup>カンカイ</sup>とも稱し、四月の頃狂風屢起りて砂礫を飛し、陵谷一夕にして改ることあり、故に流沙といふ。夏季晴和の日、蜃氣樓の見ゆることあり。漠南・漠北を内外蒙古ともいひ、概ね不毛の荒野廣く、河沼の邊多少の耕地あり。

第九版



天山の氷河

第十版

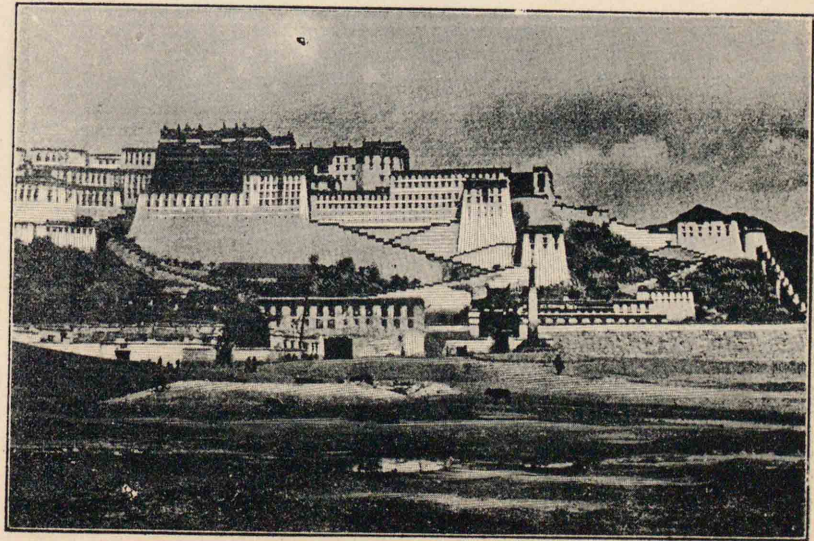


タクラマカ沙漠





蒙古人の天幕



達賴喇嘛の宮殿

外蒙古は自治の美名の下に支那の干渉を脱し、露國の勢力範圍に歸せり。

面積 九萬方里  
人口 二〇〇萬

住民は多く遊牧を業とす。張家口より庫倫クレンを經、露領恰克圖チヤクツに至る道路は隊商の往來繁く、蒙古の家畜、皮類、羊毛、食鹽等を以て、支那本部の磚茶、綿布、雜貨及び西比利亞の革類、織物、器物と交易す。庫倫は外蒙古の首府、喇嘛教の中心にして隊商群集し、賣買城マイバイシは木柵を以て恰克圖に接し、西比利亞との取引盛なり。往時歐亞を蹂躪して空前の大帝國をつくりし勇者の子孫も今は意氣振はず、外蒙古には露國の勢力漸く盛なり。

三 新疆(伊犁)

蒙古の西南にありて、南は西藏に接し、西は露領中央亞細亞に隣る。天山其の中央に連亘して天山北路ナンガリ、天山南路トウナン、東土耳其斯坦トルキスタンの兩部に分れ、面積は我が國の二倍に餘るも、人煙は稀少なり。天山、崑崙兩大山系の間に塔里木盆地タリム

第三十四圖

新疆の土耳其婦人

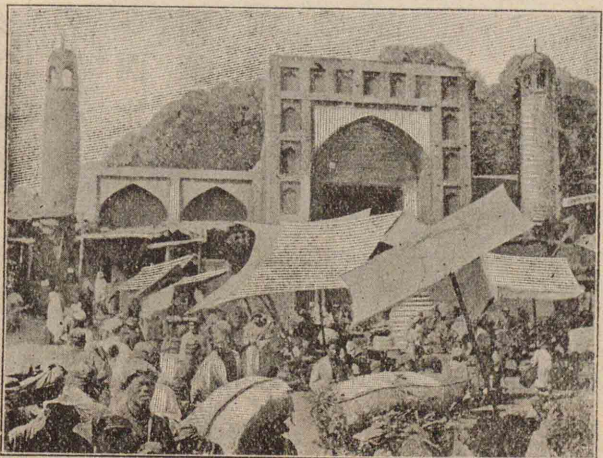


あり、塔里木河は其の南北の氷雪を戴ける高山より流出する諸水を集めて羅布湖に注ぐ。周圍の山麓の地には僅

第三十五圖

カシユガルの市場

に泉地ありて遊牧民住するも、中央はタクラマカン沙漠をなす。哈密は甘肅より露領土耳其斯坦に至る隊商の要路に當り、是より南北兩路に分る。北路の迪化(烏爾木齊)は省城にして、伊犁(タルデヤ)附近は同名の河に灌漑せられ、土地肥え産物多く、中



第三十六圖

ヘゲン

ヘゲン氏は瑞典の人、一八九六年より一九〇八年まで三回、新疆・西藏附近を探検し、我が聖恩に浴し勳二等を賜はる。



部亞細亞の樂天地なり。南路の西部、カシユガル・ヤルカンドは共に西境の要地なり。和闐は絹布・崑崙の玉を出すを以て名あり。此の地方は岩鹽・金・銅・葡萄瓜・林檎・羊・駱駝を産し、住民は牧畜を營むもの多し。古代支那と西亞細亞・印度との交通の要點に當り、諸小國の割據せしことあり、史上の遺跡甚だ多く、ヘチン・スタイン・橘諸氏により沙漠中に埋れたる舊址の發掘せられしもの少からず。

四 青海

支那の中央にあり、中部崑崙山系蟠りて土地高し。同名の湖あり、海拔三千餘米にある鹹湖にして魚鹽の利あり。土地

青海を合せて  
面積七〇〇万里  
人口 二〇〇萬

第三十七圖

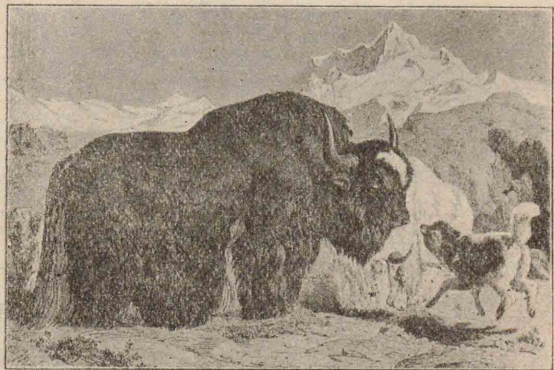
犛牛

拉薩は海拔三六  
三六米にありて  
富士山の頂上よ  
り低ざること百餘  
米のみ。

一般に瘦せ住民少し。

### 五 西藏

支那本部の西、新疆の南にあり、ヒマ  
ラヤ山系を以て印度と境す。ほとんども東西  
に連れる幾多の並行山脈あり、平均の  
高さ四千米以上に達し、世界第一の大  
高原をなす。氣候酷烈、盛夏の候も夜間  
霜雪を見ることあり。されば荒原、草野  
相連り、土人は多く犛牛、羊を牧し、ブラ  
ーマ、ブトラ河流域のみ僅に耕地あり。  
羊毛、皮革、金、麝香等は主なる産物なり。  
喇嘛教の本地にして、首府拉薩にはその教主達賴喇嘛の壯  
麗なる宮殿あり。市民の半以上は僧侶なり。亞東は印度と通



第三十八圖

西藏人



を拒み、世界の秘密國と稱せられ、今なほ探検を経ざる處多し。

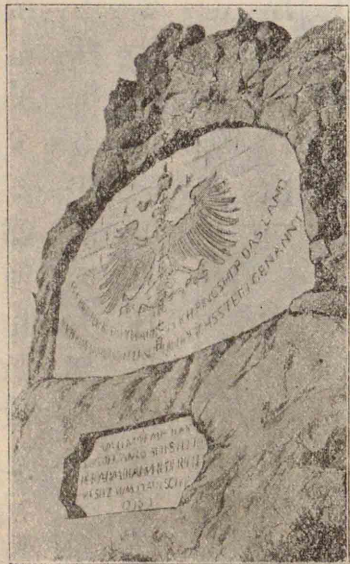
### 六 列國の領地

#### 租借地

#### 獨逸

膠州灣は山東半島

の南岸に位す。租借以來經營  
に餘念なく、青島は商港と軍  
港とを兼ね、附近に大學あり。

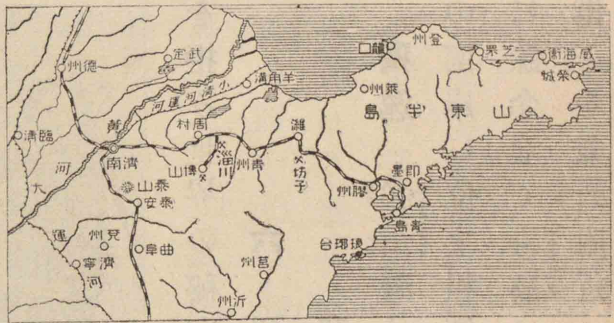


青島占領紀  
念磨崖碑

膠州灣租借  
地  
面積 三万里  
人口 一萬  
租借期限一八九  
八年より九九年  
間

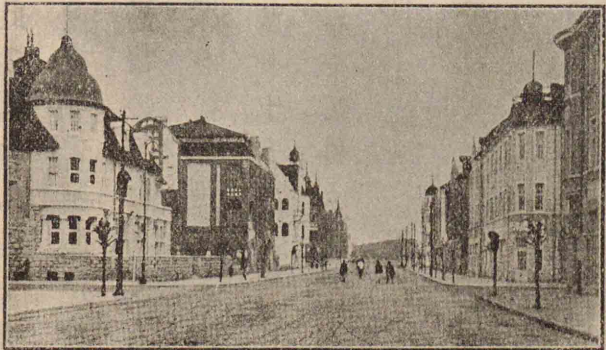
第四十圖

山東半島圖



獨逸は濟南に通ずる鐵道を敷設し、沿線の石炭をも採掘し、半島の大部を其の勢力範圍とせり。大正三年八月、我が帝國は獨逸に對して宣戰し、十一月青島を陥れ、山東鐵道及び炭坑を占領し、租借地に軍政を布けり。

青島は北支那に於て最も氣候溫和の地にして、埠頭の設備大連に比すべく、山東の門戸をなし、麥稈眞田・生絲落花生・豆油を輸出し、綿絲・綿布・紙・砂糖・燐寸を輸入す。



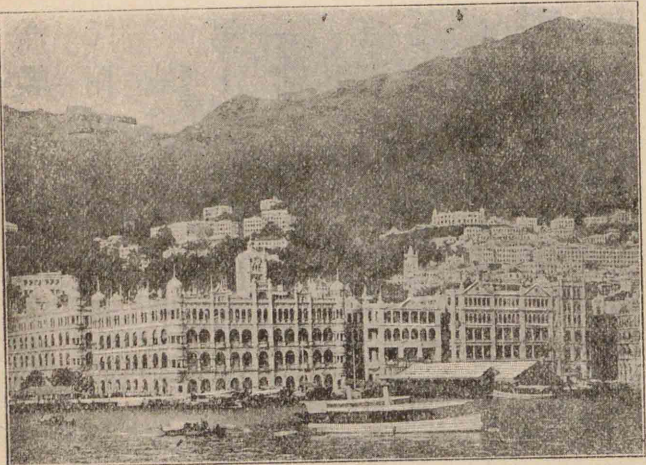
第四十一圖

青島

香港島及び九龍(領地)面積五方里二分の一、人口三十七萬。  
九龍半島(租借地)面積五方九方里二分の一、人口十萬。  
第四十二圖

香港

九龍半島(租借期限)一八九九年より十九年間



此の港より砂糖・錫を少しく買ひ、石炭・銅燐寸・水産物を多く

其の總額一九一一年には一億圓弱なりき。租借地外の鐵道沿線に濰縣・青州・周村の諸都邑あり、支線南に分岐して博山に達す。其の沿線に淄川・博山の諸炭坑あり。

英吉利

香港は廣東灣の東口

にある小島にして、數十年前阿片戦争の結果割取せし所なり。市街をギクトリアといひ、人口二十餘萬あり。自由港にして諸般の設備

整ひ、東・西・南・洋航路の大中心に當り、通過貿易繁盛にして茶・絹を輸出し、綿布・阿片を輸入す。我が國は

賣る。近時亦紡績・精糖・造船の工業著しく進歩せり、本國の東洋艦隊は此處を根據地とし、對岸の九龍も英國の領地にして、附近は租借地なり。

威海衛附近  
面積 四万里  
人口 一五萬  
租借期限一八  
九八年より二  
十五年間

威海衛は山東半島の北岸にある良港なり。日清戰役の戰場として名高く、今は英國の租借地となり、其の東洋艦隊の一部碇泊す。

澳門  
面積 一万里弱  
人口 七萬

廣州灣租借地

面積 四万里  
人口 一八萬  
租借期限一八  
九八年より九  
十九年間

葡萄牙 廣東灣口の澳門<sup>マカオ</sup> 瑪港は二三百年前、葡萄牙人こを根據地として盛に活動し、我が國人にも天川<sup>アスカ</sup>として知られしが、今は香港に其の繁榮を奪はれたり。

佛蘭西 廣州灣<sup>クワンチュワン</sup>は雷州半島の東側にありて、佛國が雲南鐵道の敷設權を得し時に租借し、南支那に其の勢力を張らんとせり。

設問

○支那本部の地勢上の三區分と各部の大河とを問ふ。

○揚子江の大支流を上流より順に列舉せよ。

○萬里の長城は何處に在りや、且つ何の爲に築かれしか。

○山東・陝西・江浙・湖廣・四川地方の地形・人文上の特徴如何。

○支那本部の北・中・南部の交通・商業の中心は何處なるか。

○支那本部十八省及び省城の名を列舉せよ。  
○支那に於ける列強の領地・租借地は、夫々

如何なる要所を占むるか。

○支那の各藩部を面積順に示せ。

○支那人の特質を述べよ。

○支那國家の統一の困難なる所以如何。

○支那の主要なる産業を問ふ。

○支那の重要輸出入品を列舉せよ。

○支那と我が國との貿易の狀況を説け。

○支那に於ける我が總領事館の所在地を舉げよ。

○揚子江沿岸の貿易港を指示せよ。

○支那國運の現況を略説せよ。

○上海より重慶に至る水路の旅行記を作れ。

面積 一〇八萬方里  
人口 三三三萬

第三章 亞細亞露西亞

Asiatic Russia

露西亞は三百餘年前より亞細亞北部を占領して、南はア

フガニスタンに界し、東は太平洋に達し、面積全洲の三分の一を占有し、行政上大別して西比利亞・中央亞細亞・高加索の三部となす。

西比利亞  
Siberia  
地文

面積 八萬方里  
人口 九〇萬

**位置・境域** 我が朝鮮及び支那の北に接し、西はウラル山脈を以て本國に境す、面積は支那より大なれども、人口は我が國の七分の一に過ぎず。

**地勢** 南東部の高地より北西に緩斜し、次第に低き凍原に終る。其の間地勢と氣候・植物との關係によりて、次の四帯に分る。

- 一、**高地帯** Highlands 南東の諸山脈地方を指し、金・銀・黒鉛の産多し。
- 二、**草野帯** Steppes オブ河上流即ち北緯五十五度以南の大平原

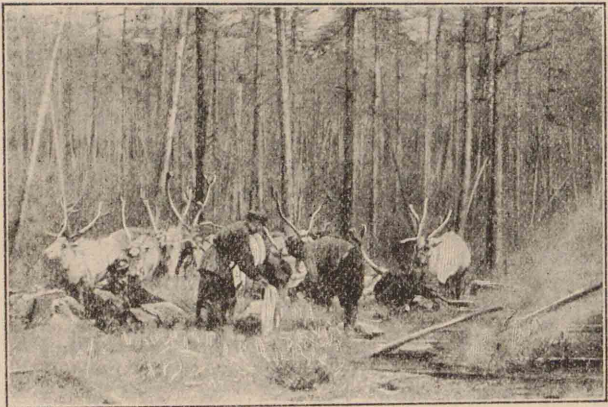
にして、農産豊なり。

- 三、**森林帯** Forests 其の北方北緯六十五度まで、東西に亘れる針葉樹の密林地方にして、毛皮獸多し。

- 四、**凍土帯** Tundras 北極洋岸の低原にして、年中の大部は地下深く凍結し、夏季は表面多少融けて沼澤となり、蘚苔を生ず。

オブ・エニセイ・レナ・黒龍江等の諸大河は、冬季氷結すれど、其の他の季節には水多く流緩く、舟運の便多し。

節には水多く流緩く、舟運の便多し。バイカル湖は山中にあり、亞細亞第一、世界最深の淡水湖にして、結氷期以外は汽船を通ず。



第四十三圖  
シベリア森林と馴鹿

バイカル湖は最深千五百米を超ゆ。



第四十四圖

バイカル湖

エルホヤンスク  
の氣温  
年平均(一)  
七度、一月平均  
(一)四八度。

北極洋岸は概ね低平にして、タイミ  
ル半島・オブ灣の出入と、新西比利亞諸  
島の横はれるとあれども、年中多く氷  
結し、太平洋岸はカムチャツカ半島あ  
りて、ベリリング海とオホーツク海と  
を分ち、概して屈曲に富み懸崖多し。

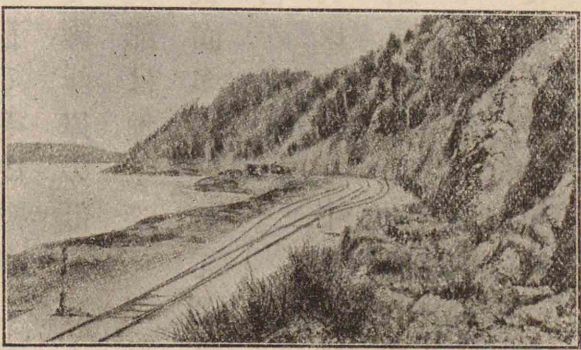
氣候

大陸性にして、草野地方の稍  
溫和なる外、酷烈にして、夏は短くして  
氣温高く、冬は長くして酷寒なり。エル  
ホヤンスク附近の如きは世界の寒極  
と稱せらる。

人文

産業

南西の草地帯には農業開け、麥の産出夥しく、牧畜



マンモスの象牙  
に彫刻に用ふ。  
西比利亞は世界  
第一の毛皮の産  
地なり。

西比利亞鐵道に  
て滿洲の西境よ  
り本國の境まで  
二九六五哩。  
浦鹽・露京間五  
八一〇哩。急行  
一日。  
黒龍江鐵道はホ  
ルチンスクより  
ハバロフスクま  
で一三七八哩な  
り。

も盛なり。森林帯には松・樺等の密林中に狐・貂・狼・熊・栗鼠の如  
き毛皮獸あり。又マンモスとして舊象の巨大なるものの屍體  
レナ河口及び新西比利亞諸島の氷中に發見せられ、其の牙  
を採る。金・銀・石炭等の鑛産はウラル・アルタイ及び黒龍江流  
域に多く、魚類海獸は大河及び太平洋に豊なり。工業は盛な  
らざれども、内地の都會には市を立て、支那・日本との通商も  
次第に發展せり。輸出品は穀類・毛皮・鑛物・水産・畜産にして、輸  
入品は諸種の加工品・酒類・米・茶等なり。

交通

内地の交通には馬車及び橇(犬・馴鹿・馬)を用ゐ、河湖  
も冬季の外汽船を通ず。西比利亞鐵道の敷設以來、俄に便利  
となり、東西洋交通の上に新時期を劃せり。黒龍江の北方に  
沿へる黒龍江線も近時竣成せり。電信亦鐵道に沿ひて架設  
せらる。沿海は、三十餘年前ノルデンショールド氏北極洋を通

浦鹽・敦賀間  
四九〇哩  
航海二晝夜

西比利亞在留邦  
人三六〇〇。  
西比利亞の土人  
を總稱して北極  
族とも云ふ。(通  
古斯を除く)  
第四十五圖

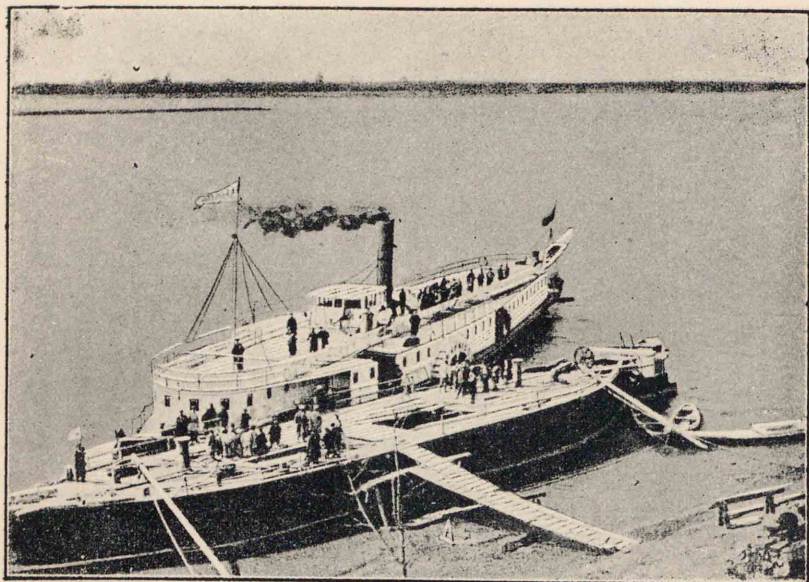
サモエド族  
の暮營生活

過して學術上に裨益を與へしも、實際には利用せられず。太平洋岸の浦鹽斯德は其の門戸にて、我國との間に定期航海あり、又長崎との間に海底電線を通ず。

住民 數百年前迄は殆ど無人の曠野にして、露西亞も最初は國事犯人を流謫して開拓せしめしが、次第に面目を改め、諸種の産業起り、殊に大鐵道の開通ありてより一層活氣を呈し、本國人の移住漸く多きを加へたり。されど尙ほ、南東山地・北部は人煙稀少なり。露西亞の移民即ちスラヴ族は全人口の九割を占め、土人にはサモエド・ツングース・オスチアック・チュクチ及びギリヤク・アイヌ等あり。概ねレナ河畔・山地・海岸に



第十三版



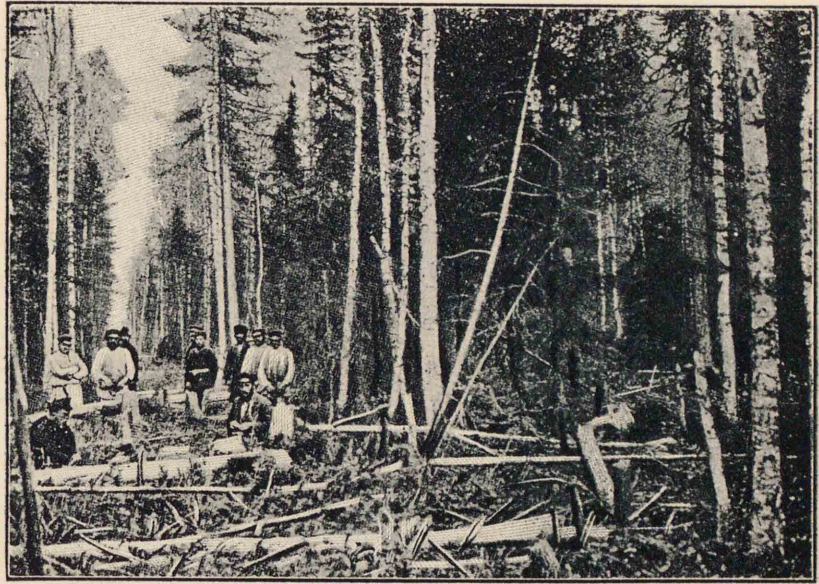
(船の民移) 船渡の河ブオ

第十四版



橋鐵の河イセニエ





西比利亞の森林と開墾



移民の村

第四十六圖

西比利亞土人  
オスチアツク(右)  
チュクチ(中)  
ツングス(左)

都會人口

浦鹽斯德に我が總領事館あり。  
トムスク 三萬  
イルクツク 二萬  
浦鹽斯德 九萬  
クラソノヤルス 八萬  
アラゴゼシチ 七萬  
エンスク



住し、漁獵又は馴鹿の遊牧をなし、低度の生活を営めり。政治區劃は黑龍江地方と東、西、西比利亞の三部に分ち、西、西比利亞のみは本國の直轄にして、本國と同様の政治をなし、他の二部は總督を置きて之を統べしむ。

處誌

黑龍江地方 浦鹽斯德はビ  
Verkhovsk  
イター大帝灣に臨み、西比利亞  
The Great  
第一の開港場にして、太平洋艦  
隊の根據地なり。冬は氷結すれ  
ども、碎氷船ありて汽船の出入

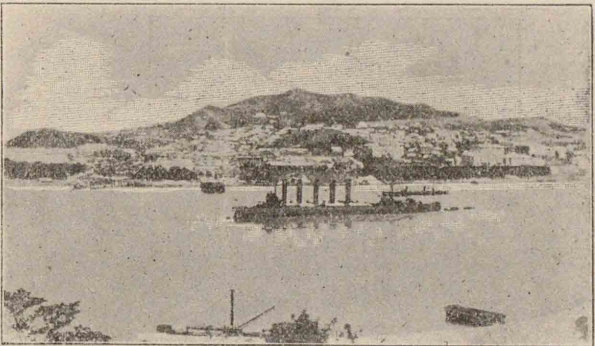
千  
ノ  
ダ  
ニ  
コ  
ラ  
エ  
フ  
ス  
ク  
六  
バ  
ル  
ナ  
ウ  
ル  
五  
ニ  
コ  
ル  
ス  
ク  
（  
ウ  
ス  
リ  
）  
五  
ハ  
バ  
ロ  
フ  
ス  
ク  
五

ニコライエフス  
クに我が領事館  
あり。

第四十七圖

浦鹽斯德

コマンドル諸島  
はアラスカのプ  
リビロフ諸島と



パウロフスクには漁船聚合し、コマンドル諸島附近には鮭、鱒、鯨、鰻、豚獸、海豹、獵虎等多く、ペトロ

に便す。西比利亞鐵道の終點にして、我が敦賀との交通貿易  
漸次盛大に赴かんとす。ハバロフスクは黒龍江本流とウス

Khabarovsk

リー河との合する處に位し、總督の駐在  
地にして、黒龍江鐵道と烏蘇里鐵道との  
會點にあり。ニコライエフスクは黒龍江

Nikolayevsk

口に近く、沿海州漁業の中心をなし、夏季  
我が國の漁業者群集す。樺太島はもと露

Sakhalin

西亞の流瀆地にて、北半は産物、氣候南半  
と大差なく、西岸のアレクサンドロフス

Alexandrovsk

クに知事駐在す。カムチャツカ半島には火  
山多く、附近は世界三大漁場の一にして、

Petropavlovsk

Comandorski

共に腦豚獸の繁  
殖地として著し  
る。

第四十八圖

イルクツク

豚獸夥し。ブラゴエシチエンスクは黒龍江鐵道の支線來り通  
じ、黒龍江舟運の中心をなし、支那の愛琿に對せる要地にし  
て、附近に金坑多し。恰克圖は蒙古の賣  
買城に近く、茶と毛皮との交易盛なり。

東部西比利亞

Irkutsk

イルクツクはバイ

カル湖の西にあり、軍事・商業上の要區  
にして總督府あり。ヤクーツクは毛皮  
象牙の取引甚だ盛なり。

Yakutsk

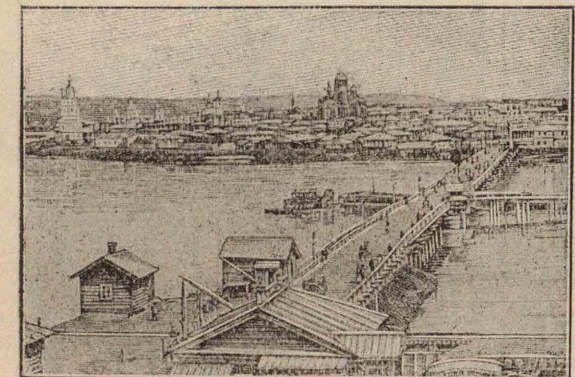
西部西比利亞

Tomsk

トムスクは商業の

中心にして總督府大學あり。バルナウ  
ルは鑛業の中心地、トボルスクは地方

Barnaul



物産の集散地なり。此の邊土地よく開け、農業盛にして、西比  
利亞の穀倉と稱せられ、他に比して人口頗る稠密なり。

面積 二萬方里  
人口 一七三萬

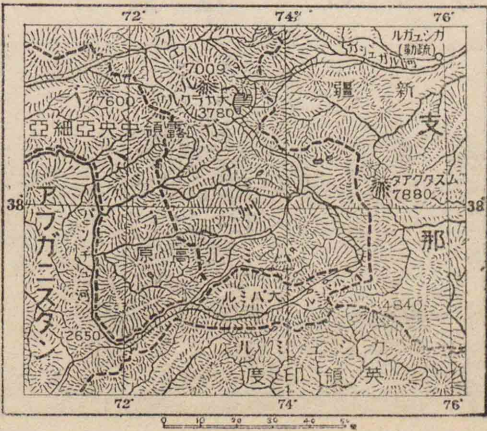
第四十九圖

パミル高原

**中央亞細亞**  
Central Asia  
Caspian sea

西比利亞の南西、裏海の東にあり。露西亞が最近數十年間に占領せし所にして、對英外交上、重要な地域なり。南東にはヒンヅークッシ山脈、パミル高原、天山山系等あり、土地高峻にして、次第に北西方アラル海、裏海に向つて降下し、ツラン・タム・オス、キルギスの低原となる。河川皆北西流し、伊犁河はバルハシ湖に、アム・シル兩河はアラル海に注ぐ。氣温急變し、雨量も少くして、北部は草野、南部は沙漠をなし、山麓・河畔の地のみ耕作に適す。

草野にはキルギス族遊牧し、羊・馬・牛・駱駝等を養ひ、羊毛・皮



都會人口

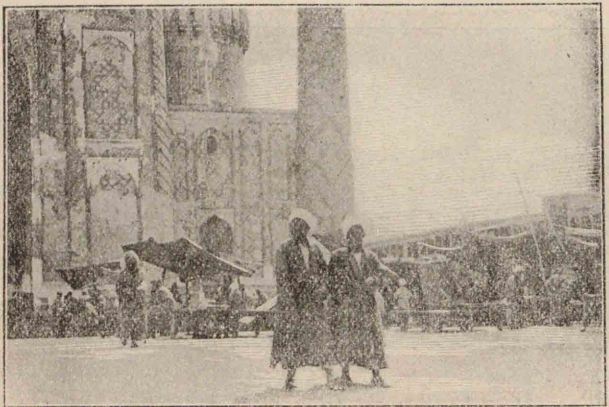
タシケント 三三  
オムスク 二三  
コーカンド 二  
サマルカンド 九

第五十圖

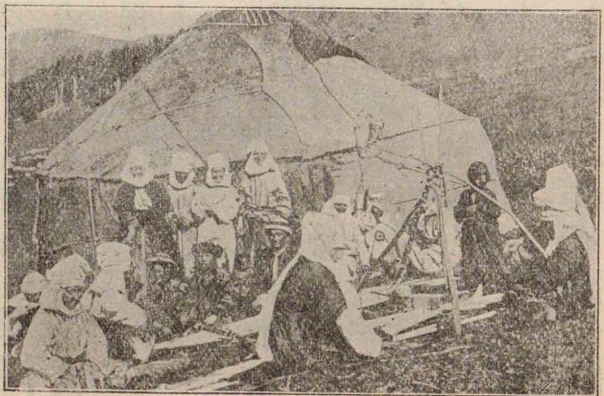
キルギス族

第五十一圖

サマルカンド



革の産あり。南部には土耳其族定住して農業を營み、穀物・綿・生絲・果實を産す。外裏海鐵道及び中央亞細亞鐵道は、露國が軍事上の必要より敷設せるものにて、前者はクラスノヤドスクよりサマルカンドを過ぎて、天山の麓に達し、後者はオレンブルグより草野を横切り、タシケントを経て前者と會せり。オムスクはステップ總督、タシケント

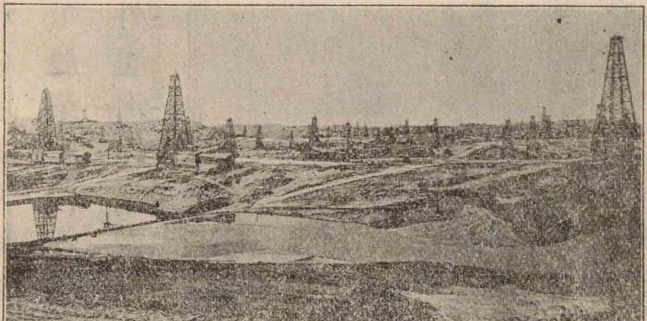


帖木兒は我が足利時代に中央亞細亞に出てし蒙古人の英雄なり。

面積 三萬方里  
人口 一〇〇萬  
第五十二圖

田 バクラーの油

都會人口  
チフリス 三萬  
バクラー 三萬  
バツーム 四萬  
石油は世界第二、全世界産額の五分の一を出す。バクラーよりバイ

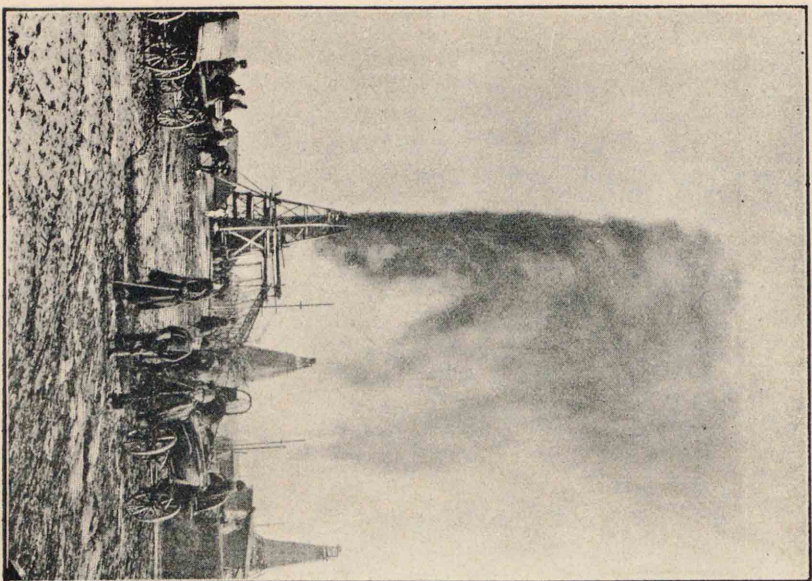


は土耳其斯坦總督の駐在地にして住民雜多なり。商業盛に行はれ、絹、鞣皮を出す。サマルカンドは隊商の集まる處、帖木兒の舊都にして、壯大なる墳墓あり。メルヴは軍事・通商上の要地にして、ボハラ・ヒヴの兩地には同名の首府ありて各酋長を戴けども、露國の保護を受く。

高加索

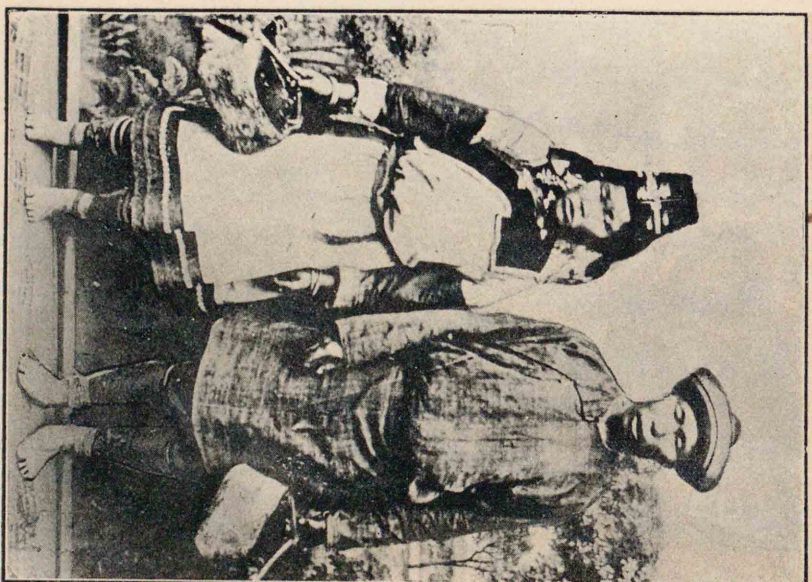
高加索

裏海と黒海との間にあり。高き高加索山脈、斜に東西に走りて、内外高加索の二部に分つ。北側はマニチの深谷に向つて急下し、不毛の荒野なれば、遊牧の民多く、南側は邱陵起伏し、土地肥え農産豊なり。氣候は概して宜しからず。此の地方は歐



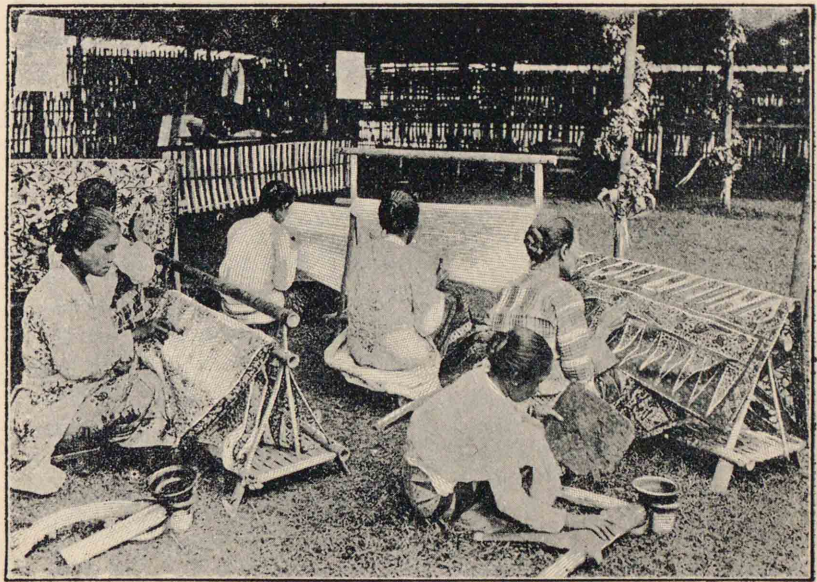
第十八版

田 賣 油 石 の ー ク バ

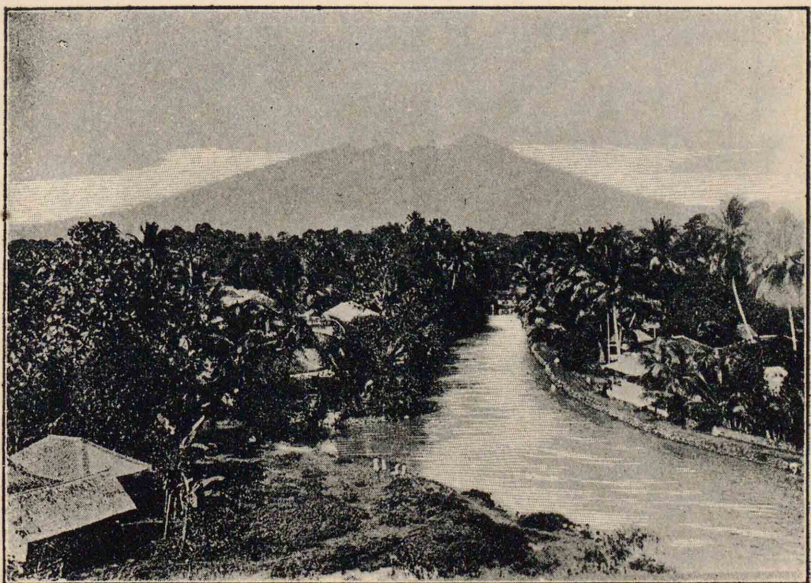


第十七版

人 士 の 江 龍 黑



瓜哇土人の更紗染



瓜哇のボイテンズグル火山と植物業園

プに依りてバツ  
ームに送る。

亞の境にありて、古來交通の衝に當り、民族複雑なれども、純粹なる高加索人は容貌の秀麗を以て著はる。首府チフリスは交通商業の中心にして、バクーBAKUは裏海岸に在り、軍港・商港を兼ね、石油の産を以て名あり。鐵路、本國及び黒海岸に通ず。黒海岸のバツーム港は石油を輸出す。

設問

- 西比利亞の地勢と氣候とを述べよ。
- 西比利亞の河川・海岸の價值を問ふ。
- 西比利亞鐵道につきて知れる所を語れ。
- 西比利亞の天産物は何か。

- 中央亞細亞の地勢・氣候・産業を語れ。
- 高加索の地勢と特産とを問ふ。
- 亞細亞露西亞中人口の最も稠密なるは何處か。
- 中央亞細亞及び高加索の交通系は如何。

第四章 印度支那

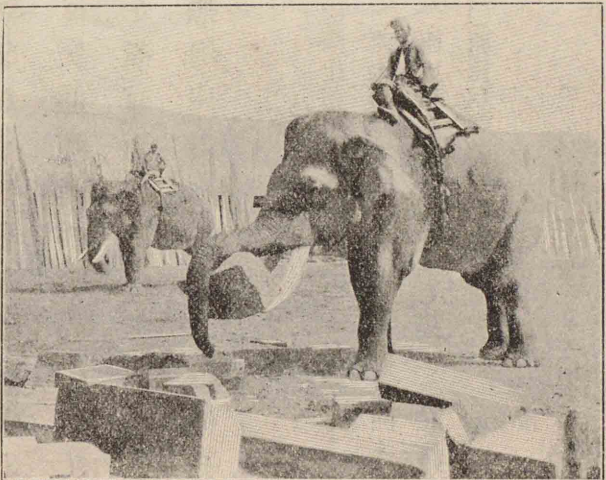
Indo-China

地文

亞細亞三大半島の一にして、西藏高原より續ける印度支

第五十三圖

象の作業



那山系は、扇状をなして南方に延び、峻嶺・深谷をなし、其の一脈は遠く延びて馬來半島となり、他の一脈は馬來群島に及ぶ。故に長流多く南下し、紅河フンホ・メコンメコン・メナム河は太平洋に、サルキンSalween・イラワヂ河は印度洋に注ぐ。皆下流に沃野を作り、海岸は東に東京灣トウキョウ、南に暹羅灣、馬來半島の出入ある外は小出入に乏し。氣候熱帶性にして乾濕の二季に分れ、雨量は特に西方に多し。

### 人文

天産は豊富にして、北部にチーク・黒檀等の良材を出し、南

部に護謨を産し、金・錫・石油・寶石等亦少からず。住民は多く農業を営み、米の産極めて多く、其の外甘蔗・綿・椰子・落花生の産多く、象・水牛は家畜として盛に飼養せらる。道路は發達せざれども、河川は頗るよく利用せられ、水上生活を営む者多く、鐵道も次第に延長せり。住民は印度支那族と汎稱すれども、その實甚しく雜駁にして、東京・安南人は支那風を帯び、緬甸人は印度人に似、暹羅人は兩者の中間にあり。又山地には苗族住み、馬來半島には馬來人種多し。此の外支那人の移住者夥しく、各地商業の實權は多く彼等の手中にあり。言語・文字は多く支那の感化を受け、宗教は佛教盛にして、南部には回教も行はる。

### 處誌

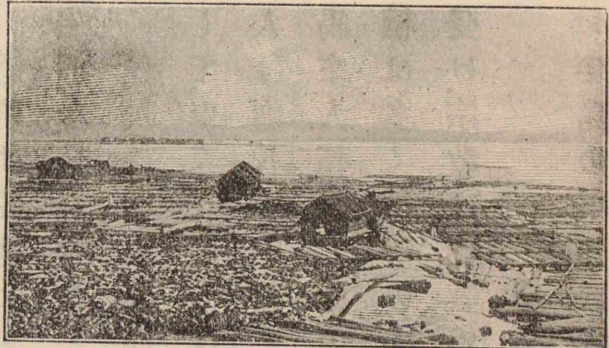
半島の東部は佛領、西部は英領にして、暹羅王國シヤムは其の間

佛領印度支那  
面積 四萬方里  
人口 一七〇萬

河内人口 一三萬  
第五十四圖

イラワダ河  
木材運搬

順化人口 六萬



カムラン及びホン  
コーエは、日露戦争の時、露艦隊の碇泊せし所なり。  
Kamranh Honkhe

老撾は西方山中に位し、未開の蕃人雜居するのみなり。

に介在して、常に雙方より壓迫を被れり。  
佛領交趾支那の領土と東京・安南・柬埔寨・老撾の四保護國とに分る。東京は南支那に接し、東京灣に臨む、紅河下流の平野は盛に米を産し、河内は其の中心をなし、又總督駐在す。海防は河口に近き要港にして、鐵道之より河内を経て、雲南省及び廣西省に入る。

安南は山多く、順化に國王居れども實權なし。順化の南方にツランの良港あり。露艦隊の時、露艦隊の碇泊せし所なり。

都會人口

柴棍 六、三〇〇  
プノムペン 六、三  
柴棍輸出入額 一〇〇〇萬圓

第五十五圖

盤谷の水上生活

暹羅

面積 三〇〇方里  
人口 八、二五萬  
(一九一〇)

盤谷人口 三三萬

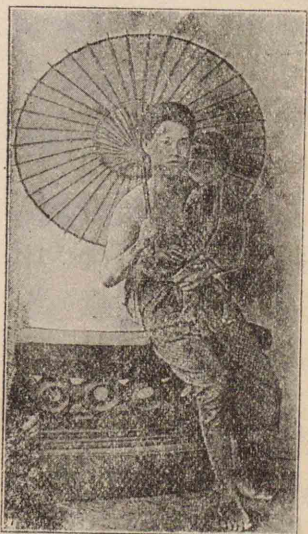


柬蒲塞・交趾支那はメーコン下流の沃野を占め、農業盛に行はる。柴棍は此の河の三角洲にある商港にして、港市の設備整ひ、盛に米を輸出す、又佛國東洋艦隊の根據地なり。プノムペンは柬蒲塞王城のある所なり。

是等諸地は、佛國植民地中の最も重要なる地なるを以て、佛國は高官を駐在せしめ、尙ほ其の保安の爲、支那より廣州灣を租借せり。

暹羅 メナム河國中を南流して暹羅灣に注ぎ、上流地方は森林繁茂してチーク材を出し、下流沿岸は耕地發達して米の産饒かなり。首府盤谷はメナム河に跨りて、城壁を繞らし、王宮・寺院

第五十六圖  
暹羅婦人



は頗る壯麗なり。河岸の浮店は、無数の河舟と共に市の活動と富力とを表せるが、普通の住居は茅屋多し。支那人は市民の三分一を占め、商權を握れり。アユチアは舊都にして、中心なり。

Ayuthia

此の國は専制王國にして、近時頻りに外國の文明を輸入して改良を計れり。曾て山田長政、我が國人を率ゐて武功を立てしことありて、今も我が國と條約を結び、親交あり。米・チーク材を我が國へ輸出す。

莫領 緬甸

印度帝國の一州にして、地勢自ら邱陵地と平地とに分れ、イラワヂ河の三角洲は米産多く、北方には石

緬甸  
面積 四萬方里  
人口 一、〇〇〇萬  
(一九二〇)

都會人口  
ラングーン 元  
マンダレー 四  
ラングーン輸出  
入額 三、〇〇〇萬圓  
(一九二〇)

第五十七圖

ラングーン  
の寺院

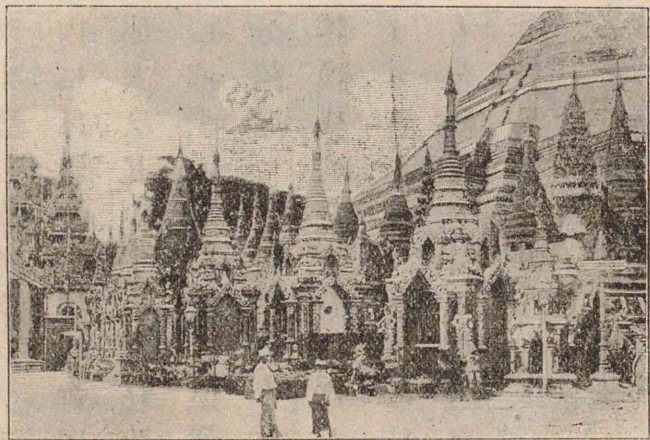
油・チーク材・紅玉を産す。南部は夏季降雨甚だ多く、洪水の虞あり。ラングーンはイラワヂの三角洲にあり、副總督駐在し、近年俄に發達せる貿易港にして、米・チーク・石油等を輸出す。マンダレーは此の河の上流にある舊都にして、寺院多し。

Mandalay

海峽植民地

馬來半島の南部

にして、海岸の要所は直轄領地。内地の大部は保護聯邦なり。錫の産甚だ多く、又護謨・コブラ・鳳梨・香料等を出す。新嘉坡は半島の尖端に近き小島上にあり、八十餘年前、英國の手に歸せし所

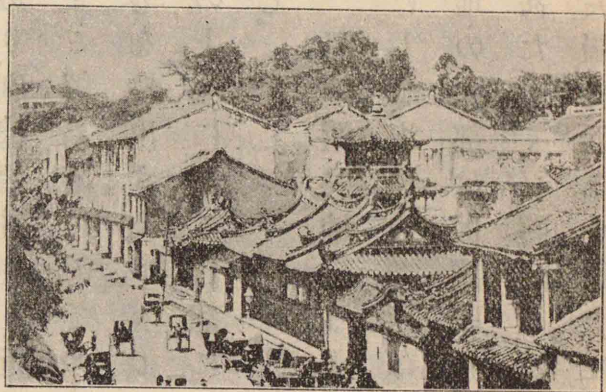


海峽植民地  
直轄領地  
面積 二五方里  
人口 七萬  
保護地  
面積 六〇〇方里  
人口 一、〇〇〇萬

Singapore



新嘉坡輸出入額  
 出 三〇〇萬圓  
 入 三七〇萬圓  
 錫輸出額 一五〇萬圓  
 護謨 三〇〇萬圓  
 橫濱を距る 二八七哩  
 新嘉坡人口 三萬  
 第五十八圖  
 新嘉坡の支那街



馬來半島の錫は世界産額の大部分を占む。

設問

○印度支那の地勢を説明せよ。

にして、東西亞細亞交通の要衝に當るを以て、市況甚だ盛にして、通過貿易を主とし、又半島の錫・護謨・コブラを輸出す。市内には數多の種族雜居し、中にも支那人は其の半を占む。此處より盤谷に通ずる半島縱貫鐵道は、已に大部分落成せり。對岸のヂョホール附近は護謨栽培盛にして、邦人の之に従事する者あり。マラッカは往時盛なりしも今は衰へたり。北西海岸に近き小島にはペナンの港市あり、貿易盛なり。

○新嘉坡の現況を説明せよ。

○暹羅の國狀を述べよ。

蘭領  
 面積 五〇〇方里  
 人口 三〇〇萬  
 英領  
 面積 一〇〇〇方里  
 人口 七萬  
 葡領  
 面積 三〇〇方里  
 人口 三〇萬  
 米領  
 面積 二〇〇〇方里  
 人口 八〇萬

何處か。

○印度支那半島の特産を挙げよ。

○印度支那半島と我が國との關係を説け。

第五章 馬來群島

地文

Malay Archipelago

亞細亞の東南に散布せる大小無數の島嶼を總稱せるものにして、スマトラ・ヂャバ・チモールの一系列と、フィリピン・モルッカ・セレベスの一系列とは、共に火山に富み、ボルネオ其の間にあり。從つて有名なる地震區域にして、殊にヂャバは百餘座の火山を有す。諸島は多く山地又は丘陵性にして、ボルネオの外は大河と大平野とに乏しく、赤道附近にあれども、海洋の影響を受け、多濕にして暑熱も酷烈ならず。ココ椰子・檳榔子・サゴ椰子・護謨樹・チーク・竹・丁香・胡椒・肉荳蔻・肉桂・規那・甘蔗・珈琲

Sago-palm

Clove

Pepper

Nutmeg

Coco-nut-palm

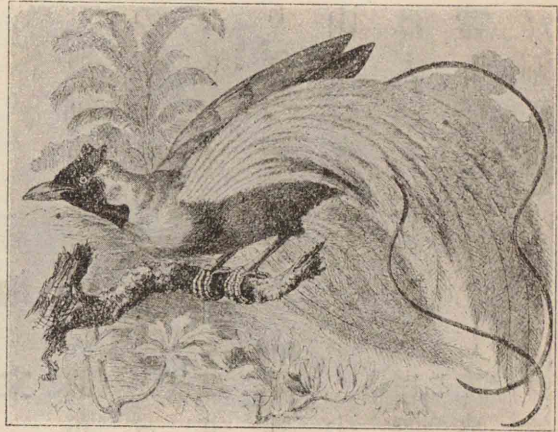
Cinnamon

第五十九圖

極樂島

第六十圖

スラバヤ港

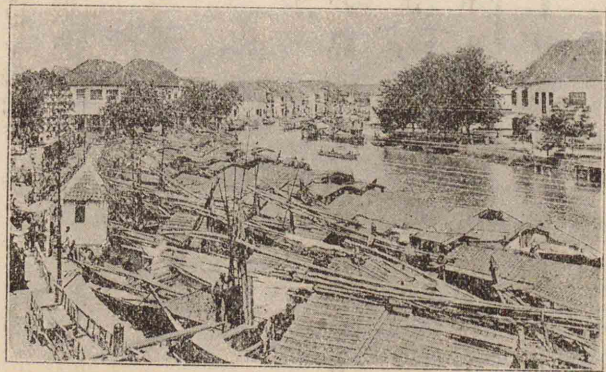


等の熱帯植物盛に繁茂し、猩々、虎、極樂鳥等も多く住み、金、錫、寶石、石油、石炭の産少からず。

人文

群島には馬來・インドネシア  
Layans Indonesians  
ア・ネグリト  
Negritos  
パプアの四種  
Papuan  
族雜居す。マレ

イ族は全人口の大部を占め、多く海岸に住して農・漁業に従事し、インドネシア族は山地に居り、ネグリト族は體軀最も矮小にして、アンダマン・フリビ



第六十一圖

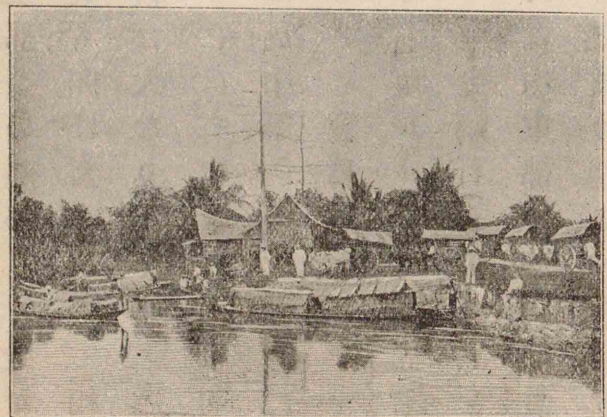
スマトラ煙草積込

スマトラ  
面積 二七〇〇方里  
人口 四五萬  
ジャバ  
面積 八〇〇方里  
人口 三〇〇萬

ンに居り、パプア族はモルッカ・チモルに散在す。此の外支那人の移民多く、商權は多く彼等の手中にあり。土人は概ね劣等無氣力なれば、古來殆ど國家を建設せしこと無く、三百餘年前より、白人來りて利を争ひ、地を分ち、遂に現状を呈するに到れり。近時我が國との貿易も盛大に赴き、我が郵船の定期航路あり。言語は馬來語の外、和蘭、西班牙語行はれ、宗教は回教を主とするも、フリピン諸島には基督教行はる。

處誌

蘭領 スマトラは煙草、石油を出し、パレムバンはジャバと來往繁く、市

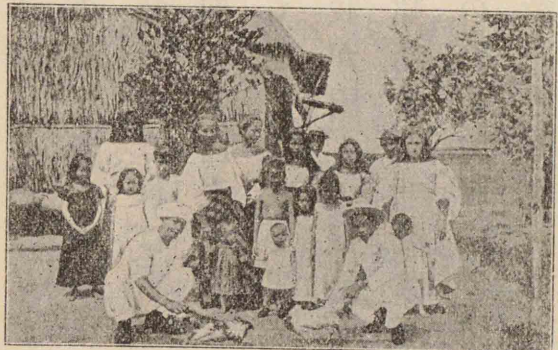


甘蔗は世界第二、  
規那は世界の七  
割。  
バタギアに我が  
領事館あり。  
クラカッタウ島は  
明治十六年に大  
爆裂をなし、四  
萬人を殺し、噴  
灰は全世界の空  
気を混濁せしめ  
たり。

ボルネオ  
面積 四〇〇〇万里  
人口 二〇〇萬  
都會人口

スラバヤ 三〇〇萬  
バタギア 二〇〇萬  
第六十二圖

石油産額 九〇萬石  
土人  
南  
洋  
郵  
船  
會  
社  
定  
期  
航  
路  
神  
戶  
—  
門  
司  
—  
香  
港  
—  
バ  
タ  
ギ  
ア  
—  
サ  
マ  
ラ  
ン  
—  
ス  
ラ  
バ  
ヤ  
(二  
九  
日)

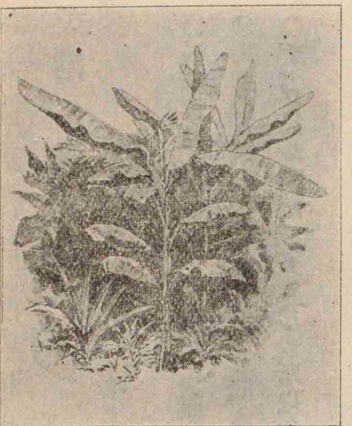


況賑へり。ヂャヅには甘蔗・珈琲・米・香料・規那・茶の産夥しく、我が國へも粗製糖を多く輸出す。群島中最も開けたる島にて、和蘭の寶庫と稱せられ、人口の密度亦甚だ大なり。バタギアには總督府あり。附近のボイテンゾルグには有名なる植物園あり。スラバヤは島中第一の大都會にしてバタギアと共に貿易盛なり。サマランは一名邑なり。ボルネオは世界第三の大島にして、金・金剛石・石炭・燕窩ツバメの巣を産し(北部を除く)、殊に南東部の油田は最も有望なり。然れども土地よく開けず、住民も少し。バンカ・ピリトンには錫の産多し。セレベスは珈琲・鼈甲カメの甲を出し、モルッカ諸島は各種の香料に富めるを以

大阪商船會社  
定期航路  
基隆—厦門—香港  
—  
マニラ—サ  
ン  
ダ  
カ  
ン  
—  
マ  
カ  
ッ  
サ  
—  
ス  
ラ  
バ  
ヤ  
—  
バ  
タ  
ギ  
ア  
(三  
六  
日)

第六十三圖

マニラ  
人口 三萬  
マニラ我が領事館あり。



て香料諸島の稱あり。  
英領 *Philippines* ボルネオの北部にして、英領北ボルネオ會社の管理する處なり。首府をサンダカンと云ふ。護謨・煙草・サゴ等の産あり。ラブアン島には石炭を産す。  
葡領 *Laban* 往時は領土廣大なりしが、今はチモルの東部を有せるのみ。

米領 *Frederick* 諸島は我が臺灣に近く、火山脈之より我が國に連り、又近海には初秋の候、大旋風屢起りて我が國に來襲す。もと西班牙に屬せしが、近年戰亂の結果、北米合衆國領となれり。呂宋は諸島中最大にして、首府マニラは煙草・マニラ麻・コブラ・砂糖を輸出し、スピダ

は米國東洋艦隊の根據地なり。海底電線は此の島より北米桑港に達せり。

設問

- 馬來群島と我が國と山脈の關係如何。
- 馬來群島の氣候と特産とを問ふ。
- ジャワ島が和蘭の寶庫なる所以如何。

- 我が國とフィリピン諸島との關係を問ふ。
- 馬來群島に住する民族を説明せよ。

第六章 印度

地文

India

面積三〇〇〇万里  
人口 三億餘  
(緬甸・ペルチス  
タン・セイロン  
を除く)

ヒマラヤとは  
「雪の住家」の義  
なり。

ヒマラヤ山系の南にありて、印度洋に突出せる大半島なり。世界最古の文明國の一にして、佛教も此の地に起りしが、其の後國力衰へ、遂に大部は英領に歸せり。

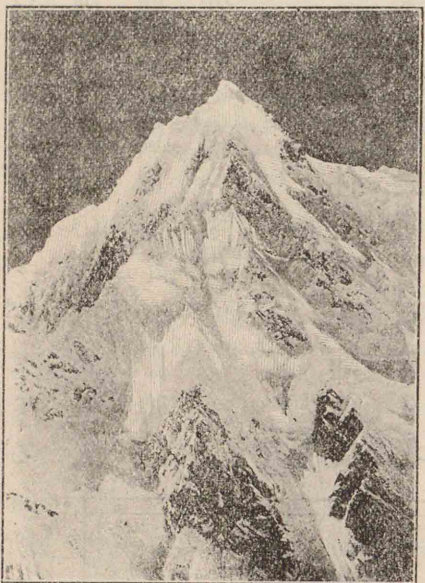
地勢

ヒマラヤ山系は北境の障壁をなし、極めて高峻にして、世界の最高峯エベレスト峰を始め、七千米以上の高山

Everest. 8840

第六十四圖

ヒマラヤ山  
中の一峯



尠からず、其の間に大氷河あり。ガンジス・ブラーマプトラの兩河南北より殆ど之を包み、下流は合して廣大なる三角洲を作り、ベンガル灣に注ぎ、インダス河はヒマラヤ・カラコルム兩山脈の間より來りて、

Bengal

Indus

Ganges

Brahmaputra

Karakorum

亞刺比亞海に入る。ヒンド

Hindustan

界無比と稱せられ、古文明

の發展地にして、今も印度

の首腦部たり。南方のデッカ

Deccan

ン高原には、東西ガーツ山

Ghats

脈海岸を走り、三角形の高原性半島を作り、兩大河の河口

Coromandel

Malabar

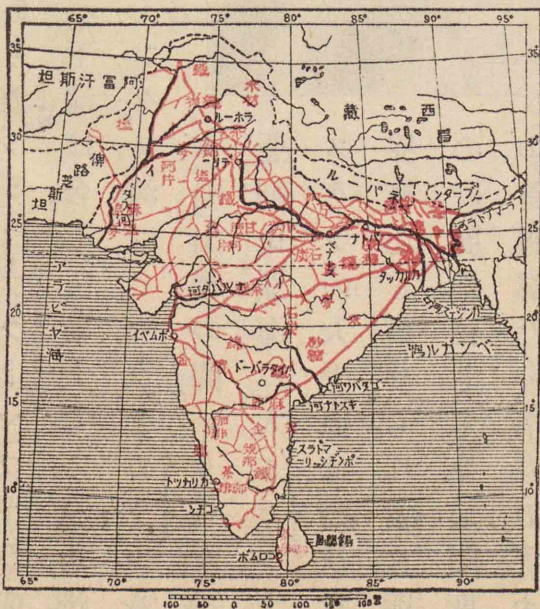
の附近は海岸に出入あれども、コロマンデル・マラバー兩海岸は、平直にして懸崖砂濱多し。

**氣候** 土地廣大なれば氣候一様ならざれど、大部分は熱帶性にて、南西北東の季節風卓越し、従つて乾濕二季の差著しく、夏は一般に高温多濕なり。殊にブラーマプトラ流域には世界最多雨と稱せらるゝ所あり、されどインダス河の下流には無雨の沙漠あり。天産甚だ豊にして、猛獸毒蛇亦乏しからず。

第六十五圖

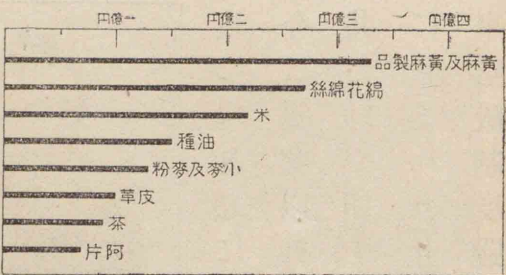
印度の鐵道及び産物

**産業** 住民の大部は農業を營み、農産豐富なり。北部平原には米・綿・小麥・阿片・茶・油種・黃麻・甘蔗藍等を産し、南方高原にも綿珈琲多



人文

第六十六圖  
印度重要輸出品價額



日本郵船會社  
社カルカッタ航路  
橫濱—神戸—門司—香港—新嘉坡—シンガポール—カラカッタ (一ヶ月)  
孟買航路  
神戸—門司—香港—新嘉坡—マラッカ—コロンボ—孟買 (一ヶ月)

交通

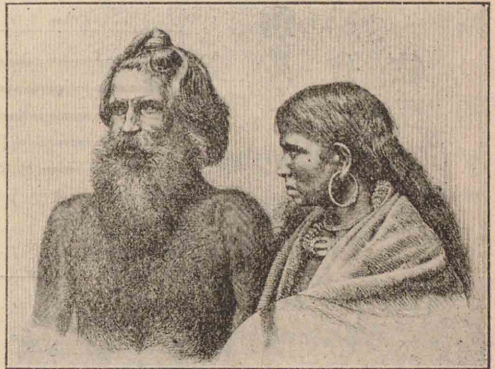
河川運河の外に、鐵道延長三萬哩を越え、内地の交通甚だ便利にして、海上にも東西の船舶盛に往來し、我が郵船會社の孟買航路は甚だ優勢なり。

**住民** 人口約三億あり。人種は複雑にして、原住民は黑人種、ネグリトに屬するものなりしが、黃人と混血してド

し。近時紡績製麻製紙等の工業著しく發展し、又石炭鐵等の礦産あり。外國貿易は甚だ盛にして、輸出入總額約二十六億圓に達し、農産原料品を輸出して、綿布・綿絲・機械器具等の加工品を輸入す。本邦は羽二重・銅燐寸を賣り、綿を買ふ。貿易港はカルカッタ・孟買を主とし、カラチ・コロムボ・マドラス之に次ぐ。

第六十七圖

ドラギダ人



ラギダ族を生じ、白人の一派入り來りて、雜種ヒンヅ族をつくれり。今はヒンヅ族最も多數を占め、多く北方平原に住し、サンスクリット語を用ひ、ヒンヅ教を奉ず。ドラギダ族之に次ぎ、自然教を信ず。亞刺比亞人・歐洲人の植民せるものもあり。回教は頗る盛なれども、基督教は餘り行はれず。佛教は此の

第六十八圖

ガンダラ佛像



地に起りしにも係らず、今は錫蘭以外には信者甚だ尠く、却て支那日本に弘まれり。此の國は古來階級制度嚴重にして、

第二十一版



ヤラマヒるた見りよグンリヂーダ

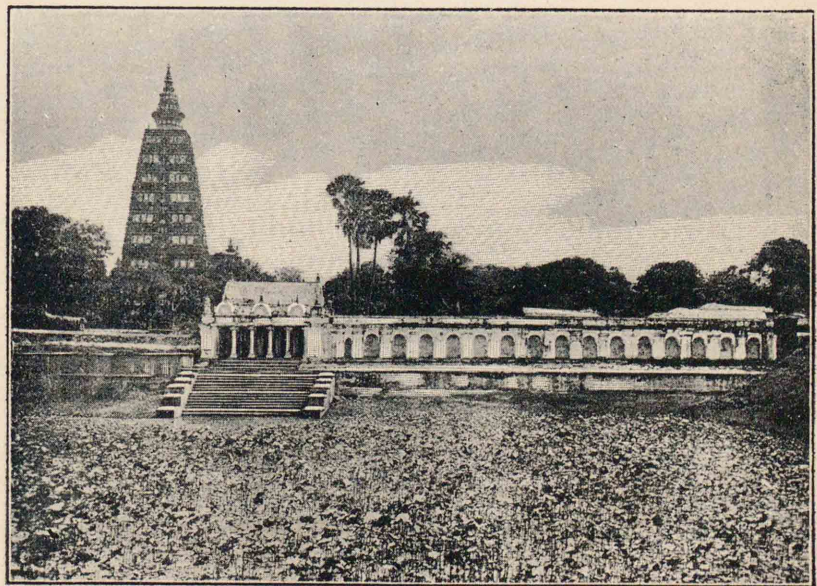
第二十二版



ヤラマヒのルミュシカ



カ ル カ ツ タ



佛 陀 伽 耶 の 塔

印度帝國  
面積 三萬方里  
人口 三億一千  
五百萬

カルカッタ 氣温  
年平均六度・三  
一月平均三・三  
五月平均二元九  
雨量 一六八耗  
同港輸出入總額  
二萬〇〇〇萬圓

國人美術に長じ、諸建造物の遺存少からざれども、天産豊富にして氣候炎熱なる爲、住民懶惰にして氣力乏しく、手を拱きて白人の施政を仰げり。

**政治** 英國は印度・緬甸・卑路芝斯坦等を合せて印度帝國といひ、英吉利國王は印度皇帝を兼ね、大總督を派して之を治めしむ。國內更に直轄地と保護地とに分れ、前者には知事を任じ、後者は駐在官をして土侯を監督せしむ。セイロンは本國の直轄植民地にして、別に總督を置けり。

處 誌

カルカッタはガンジス河の三角洲にあり、帝國の首府たりし地にして、ヒンドスタン沃野の門戸をなし、黃麻・阿片・油種の輸出盛にして、商船の出入多し。パटनाはガンジス汽船の終航點にして、阿片・米・藍取引の大中心をなし、ブダガヤは釋

Calcutta

Patna

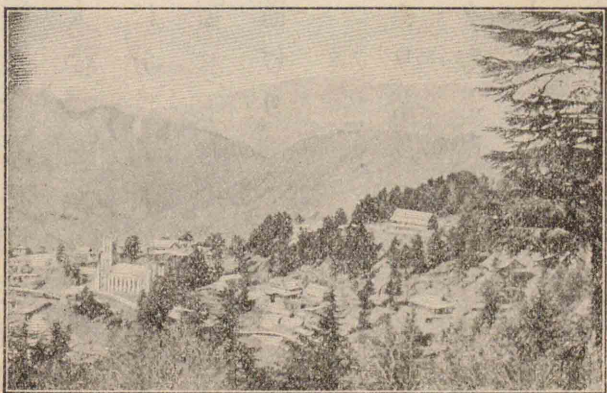
Buddhagaya

カルカッタに我が總領事館あり。

第六十九圖

シムラ

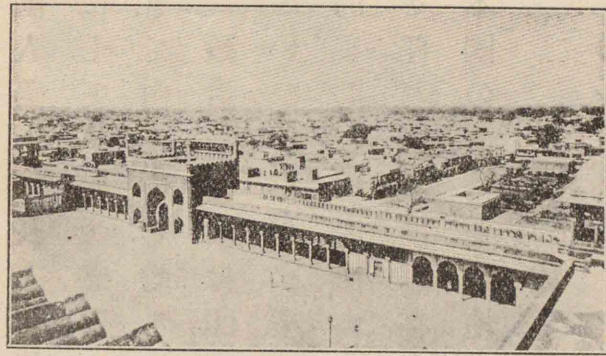
迦悟道の地なり。ダーデリングは西藏に入る要路に當る。ベナレスはヒンヅー教の聖地にして千五百の寺院あり、年々二百萬の順禮者來り、ガンジエス河水に浴して身を清む。デリーはムガル帝國の舊都、軍事交通の要點にして、美術・工藝發達し、市街繁華なり。最近に首府となり大總督駐在す。シムラはヒマラヤ山腹にあ



第七十圖

デリー

印度皇帝の戴冠式は常にデリーに行はる。  
都會人口  
カルカッタ 二二・三萬  
ボンベイ 九・八萬  
マドラス 五・二萬  
ハイデラバード 三・三萬  
デリー 三・三萬



りて、有名なる避暑地なり。カシミア地方のスリナガル近傍はカシミア織を産し、ラホールは小麥の集散地、ペシワルは邊境の要地なり。此の邊昔時健陀羅國のありし處にして、佛教美術の優秀なる標本、今尙ほ殘存せり。カラチはインダス河の三角洲にあり、盛に小麥を輸出す。孟買は西岸の良港にして、綿の輸出夥しく、紡績業亦盛なり。東海岸のマドラスは港灣宜しからざれども、埠頭防波堤を造り、皮革を輸出す。ハイデラバードは回教の靈地にして、綿・砂糖の取引行はれ、マヅラには

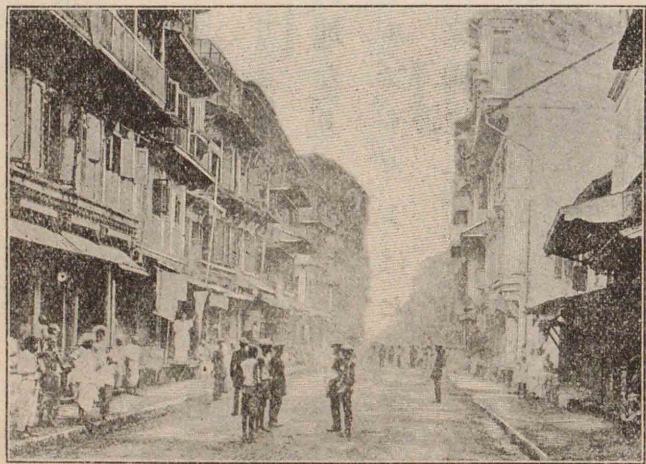
ラホール 三三  
コロムボ 三三  
ベナレス 三〇  
アグラ 二九  
マトナ 二四  
マヅラ 三三

第七十一圖

孟買

孟買に我が領事館あり。

孟買輸出入額  
(一九〇四)  
八〇〇〇萬圓  
マドラス(一九〇四)  
輸出額 一〇〇〇萬圓





錫蘭 面積 四千里  
人口 四百萬  
錫蘭島と本陸との間のアダムの橋は珊瑚礁より成る。

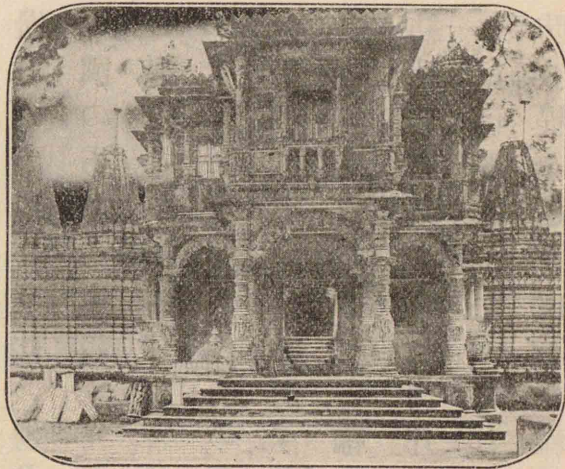
第七十二圖

ア  
メ  
ダ  
バ  
ー  
ド

ア  
メ  
ダ  
バ  
ー  
ド  
は孟買の北三百哩にあり、回教寺院の壯麗なるもの多し。第七十二圖其の一にて、以て印度の建築を想像するに足る。

ヒンヅー教の大寺院あり。

錫蘭島は山がちなれども、寶石・茶・石墨・コブラ・護謨多く、コロンボは東西航路の要衝に當り、



を産し、トリンコマリは印度洋艦隊の根據地なり。  
ネパール・ブータンはヒマラヤ山中の獨立國にして、各酋長之を治む。住民は農牧を業とし、家畜・黄麻を産す。

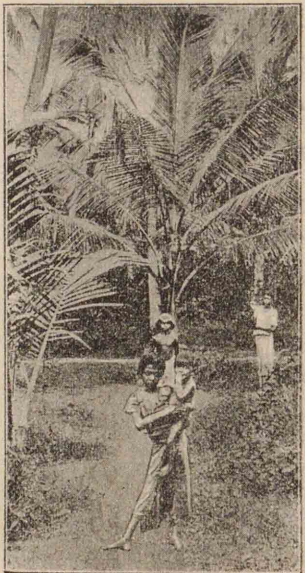
て印度に來り、一時優勢なりしも、今は僅に西岸にゴア其の他一二の小域を領するのみ。

葡萄牙人は四百餘年前、率先し

第七十三圖

錫蘭島の土人

佛蘭西人も曾て英人と印度の覇權を争ひしが、戦敗の後頓に衰へ、今はボンヂェリヤナオン其の他數箇所の領地を有するに過ぎず。



設問

- 印度と印度支那との地勢の異なる所を示せ。
- 印度の氣候に就て述べよ。
- 印度に於ける佛敎・ヒンヅー敎の靈地を問ふ。
- 印度帝國新舊の首府につきて知れる所を述べよ。

- 印度の住民を説明せよ。
- 英領印度の統轄法を語れ。
- 印度の産物を列舉せよ。
- 印度の主要輸出入品を列舉せよ。
- 我が國と印度との貿易關係如何。
- 印度内外交通の概況を説明せよ。

### 第七章 イラン地方

Iran

世界最熱地なり。

印度の西、露領中央亞細亞の南にあり。英露の勢力衝突して、屢、葛藤を生じたり。北にはヒンヅークシエールブルズ二山脈あり。東にスレイマン山脈、南にイラン山系ありて三角形の高原をなし、大部は沙漠荒原相接し、山麓河畔僅に沃地あり。空氣乾燥、暑氣酷烈なり。住民はイラン族にして、主に回教を奉じ、農牧に従事す。綿穀物、阿片、果實、羊毛、皮革、敷物等の産あり。

面積 四萬方里  
人口 三〇〇萬

**阿富汗斯坦** Afghanistan 高原の北東部にあり、山地多く、印度の防壁として重要なれば、英國は之を勢力範圍とせるも、露國南侵して紛争絶えず。首府カブールは軍事上の要點にして、ヘラトは毛氈を産す。印度よりカンダハルまで鐵道を通ず。  
Kandahar Herat

面積 約三萬二千方里  
人口 一〇〇萬

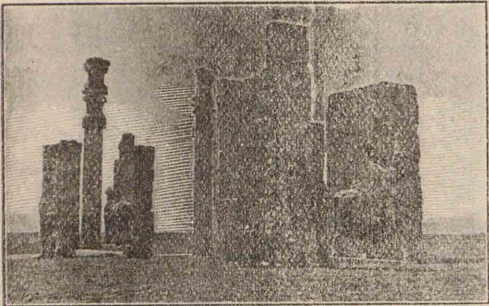
第七十四圖  
テヘラン

**卑路芝士坦** Baluchistan 阿富汗斯坦の南に位す。北東部は英領、他は其の保護地にして、ケラットの酋長最も勢力あり。クエタには印度より鐵道通じ、附近に廣き炭田あり。  
Quetta

面積 二萬方里  
人口 九〇〇萬

第七十五圖

パーセポリス(古代王國の都址)

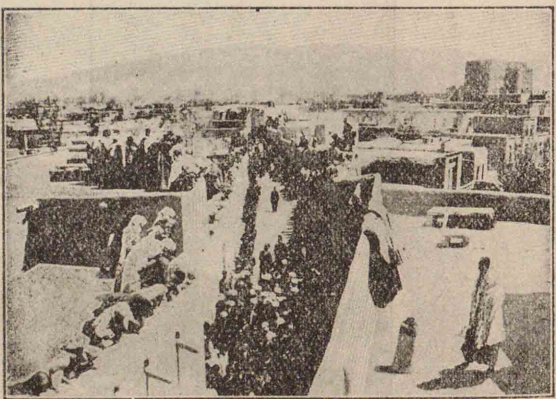


### 波斯 高原西

Persia

方の大部を占め、裏海と波斯灣との間にあり。此の

地方は古來屢、大王國起りしことあり。今は獨立王國にして、近時立憲制を布きたれども、内亂多く、英露南北より侵入して勢力範圍を分ち、中央部と波斯灣とを中



都會人口  
テヘラン 六萬  
タブリーズ 三萬  
イスパハン 八萬  
第七十六圖

チクリスの  
船橋及船

立地帯とせり。綿・果實・數物を産す。首府をテヘランと云ひ、北方の山麓にあり。西北のタブリーズは商市にて、中央のイスパハンTahizは舊都なり。

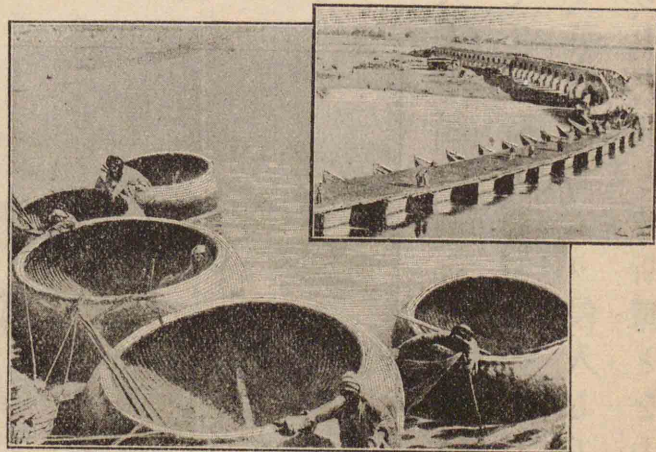
設問

- イラン地方の區域如何。
- イラン地方の國際上重要なるは何故なるか。
- 此の地方の酷熱なる所以如何。
- 波斯の國狀を問ふ。

面積 三萬方里  
人口 一六〇萬

第八章 亞細亞土耳其  
Asiatic Turkey

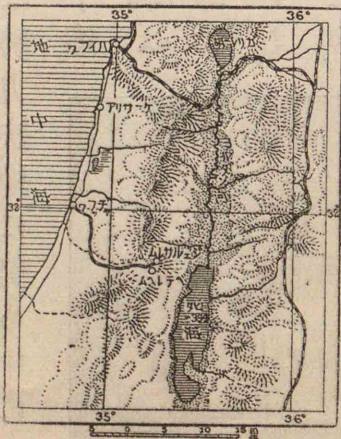
地文



第七十七圖

死海附近

イラン高原の西に連り、土耳其帝國の一部をなす。イラン高原の西北隅なるアルメニア山地より、山脈西に延びて高原性の小亞細亞半島に及ぶ。其の南東にチクリス・ユーフラテスの作れるメソポタミアの低原あり。南にはレバノン山脈の海に迫れる所にシリア地方あり。死海はデールダン深谷の水を受け、湖表、地中海面より低きこと四百米、蒸發盛にして鹽分多く、魚介の生息に適せず。地形複雑なるため、氣候も一様ならず。平野・海岸は稍、溫和なれども、内地は寒暑共に烈し。

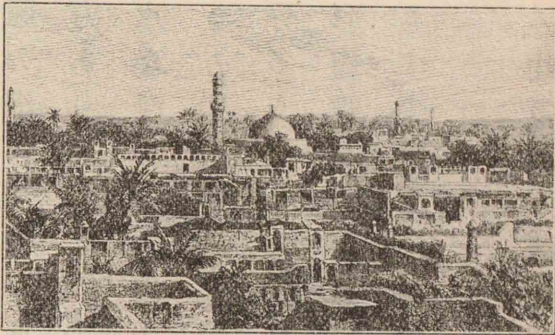


人文

此の地方は亞弗利加・歐羅巴に近く、古來幾多種族の來住

第七十八圖

バグダッド



第七十九圖

シエルサレ

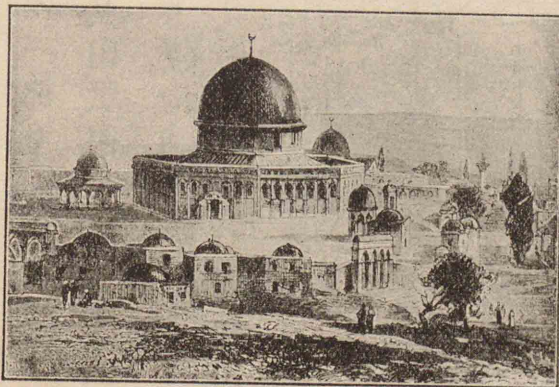
バグダッドの  
氣温  
年平均 三三・三度  
一月平均 七・九  
七月平均 三三・九

都會人口

スミルナ 三六萬  
ダマスカス 三三萬  
アレクソ 三三萬  
バグダッド 三三萬  
バイルート 三三萬

處誌

メソポタミア地方は、太古バビロニア・アッシリアの諸文明國興亡し、遺跡尙ほ存せるも、今は大に荒廢せり。バグダッド



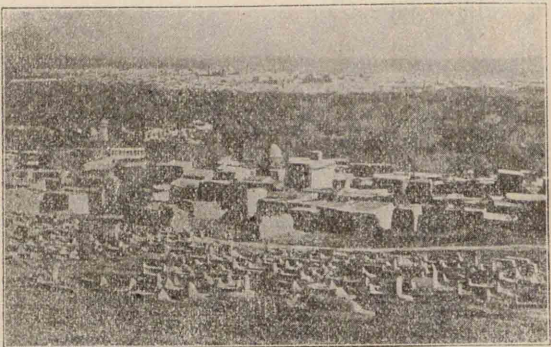
一九一六、七年の交、英國はメソポタミア平野の大部を攻略せり

第八十圖

ダマスカス

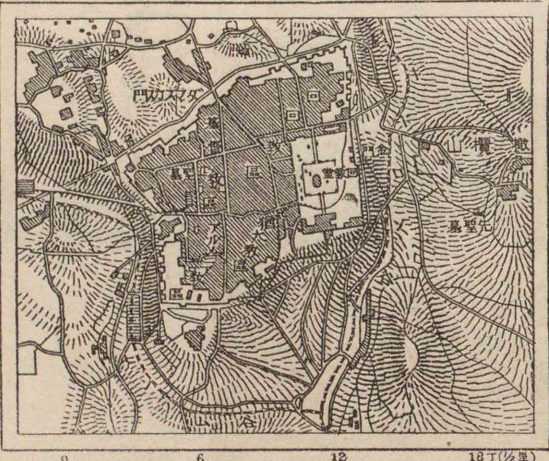
第八十一圖

シエルサレム附近



ダマスカスは商業盛に行はれ、ベイルートは其の外港なり。小亞細亞の西岸は古より希臘人の植民多く、スミルナは良港にして、乾葡萄・寶石等を輸出す。

ドはもと回教國の都たりし所にて、尙ほ交通商業の中心をなし、バスラは河口に近く、平野の門戸をなす。シリア地方は基督教、猶太教の起りし地にして、シエルサレムに基督の墳墓あり。ダ



サイプラス島  
面積 六〇〇方里  
人口 二七萬

サイプラス島は地中海の大島にて、英國の管理する所なり。希臘人住して農業に従事す。

設問

○メンボタミア平野の古今につきて、知れる所を述べよ。

○死海は如何なる湖か。

○亞細亞土耳其の住民如何。

面積 二萬方里  
人口 一〇〇〇萬

第八十二圖

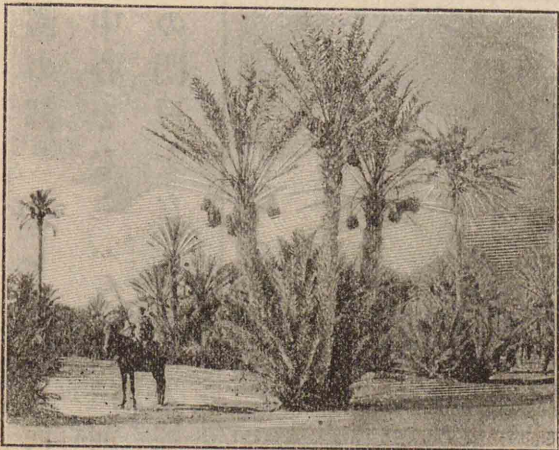
椰椰子

地文

第九章 亞刺比亞

Arabia

亞細亞の南西にある世界最大の半島にして、紅海を隔てて亞弗利加洲に對し、山脈海岸に連り、内地の高臺は西方より東方へ緩斜せり。暑氣酷烈にして雨量極めて



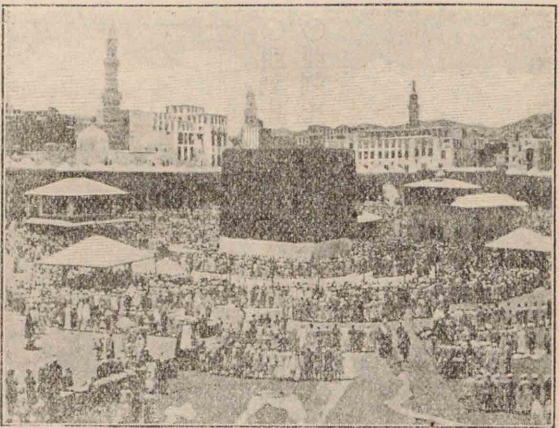
第八十三圖

メツカの順禮

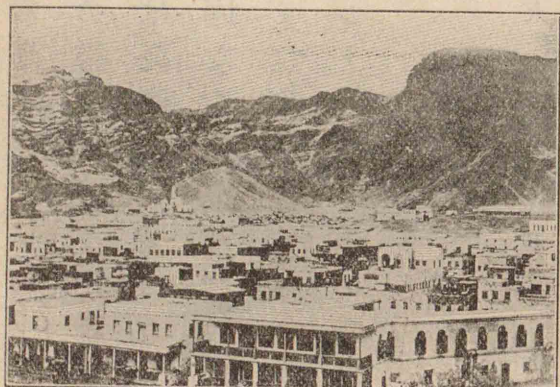
千餘年前文化大に進み、殊に天文・數理に長じたりしが、今その子孫は東南亞細亞・亞弗利加等に廣く散布せり。

第八十四圖

アデン



住民遊牧を營み、各地に散居し、馬・駱駝等を産す。全域中、東西の海岸は土耳其に、シナイ半島は埃及に屬し、オマーン國は英國の保護を受く。マスカットはオ



少く、大部は沙漠となり、海岸僅に珈琲・棗椰子・護謨等を産するのみ。

人文

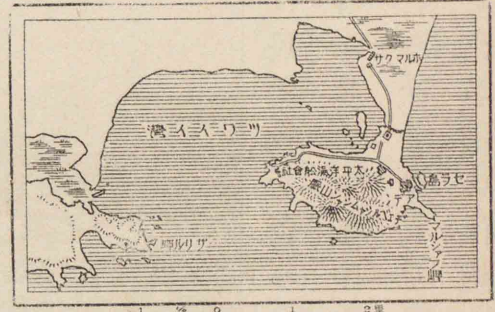
回教の始祖マホメット此の地に起りて、歐亞に跨れる大帝國を建て、亞弗利加北部をも併領せしことあり。

Mahomet

都會人口  
メッカ  
メヂナ  
八萬

第八十五圖

アデン附近



マーンの首府にして商港なり。メッカ・メヂナは回教教祖生歿の靈地にして、巡禮者常に絶えず。アデンは英領の要港にして、交通の衝に當り、堅固なる要塞及び貯炭所あり。バベルマンデブ海峡のペリム島も英領にして、アデンと共に紅海の咽喉を扼せり。

設問

- 亞刺比亞の地勢と氣候とを問ふ。
- 亞刺比亞の物産を問ふ。

○亞刺比亞人の過去と現在は如何。

### 第十章 總論

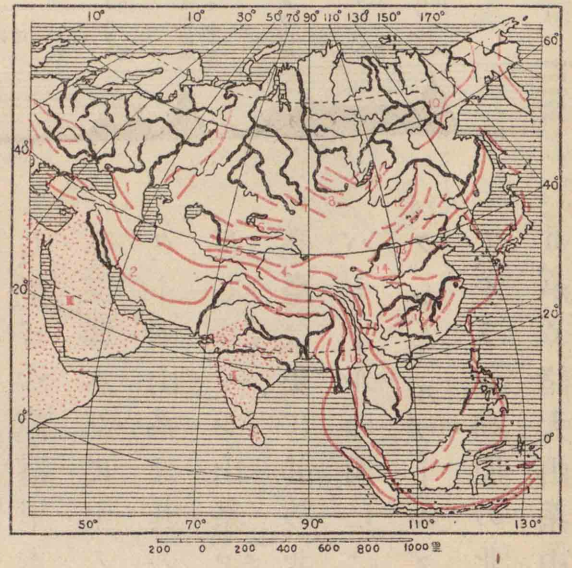
#### 一 地文

説明の便宜上、全大陸を次の五部に分ち、順次その地勢・氣候・天産を略述せん。

第八十六圖  
亞細亞の山系

- I 臺地
- I デッケン
- II アラビア
- 山脈
- 1 高加索
- 2 イラン
- 3 ヒマラヤ
- 4 崑崙
- 5 ヒンズークツ
- 6 天山
- 7 アルタイ
- 8 サヤン
- 9 ヤプロノイ
- 10 スタノヂイ
- 11 ウラル
- 12 興安
- 13 大行
- 14 泰嶺
- 15 南支那
- 16 印度支那及び馬來

第八十七圖  
パミール



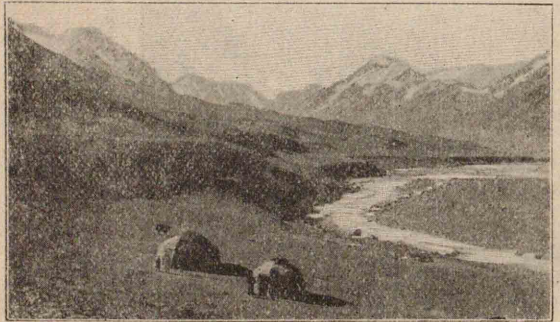
パミール高原は世界の屋根と稱せられ、高くなる幾多の山脈之より東に向ひ、恰も指の如く分岐す。即ちヒマラヤ山系は南東に曲りて西藏・印度の境を成し、世界の最

Roof of the World.

#### 一、中部亞細亞 (主として内陸流域)

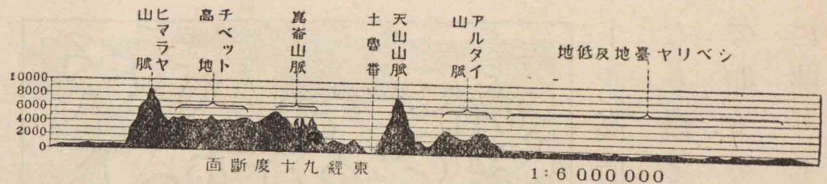
支那の西藏・新疆・青海・蒙古と露領中央亞細亞とを含み、

亞細亞の中軸をなして、地勢最も錯雑せり。パミール

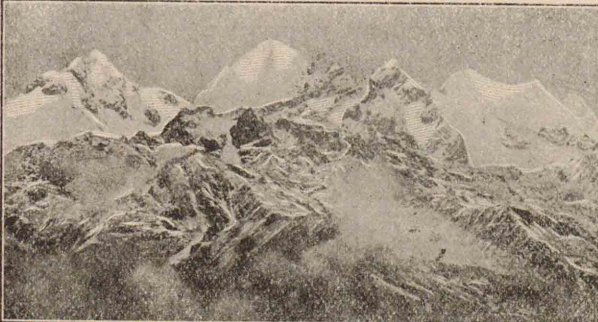


第八十八圖

峰 エゼレスト

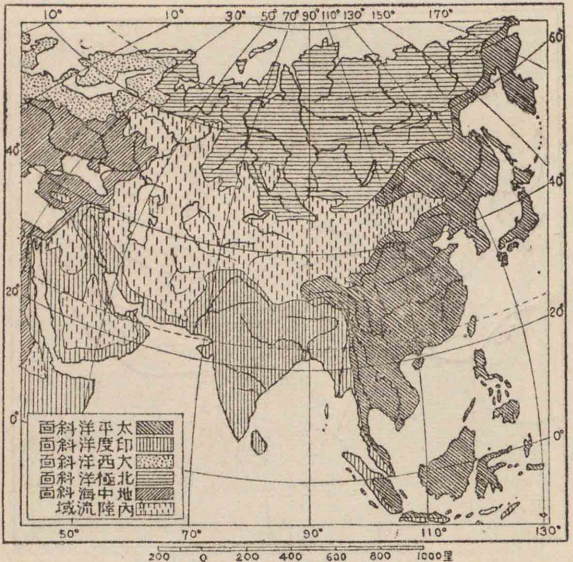


高峰エゼレスト其の他の高峰を有し、之と並行して北にトランスヒマラヤ・カラコルム兩山脈あり。崑崙山系は其の北を東走して西藏高原の北縁を成し、ゴビ沙漠・塔里木盆地に臨み、支那本部に至る。天山・アルタイ兩山系は其の北東に連亘し、サヤン山系・ヤブロノイ高臺は更に其の北東に連る。バミールの西にはヒンヅークッシュ・エルブルズ山脈ありて、イラン高原の北縁を成せり。かく諸大山系中央に連亘して、著しく交通を



第八十九圖

面 亞細亞の斷

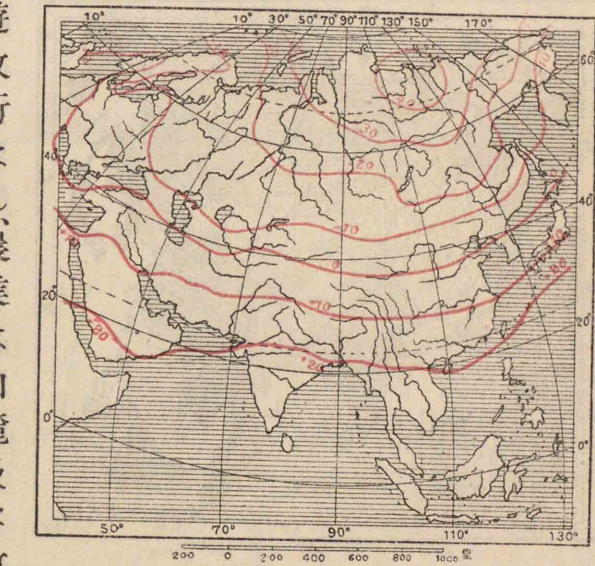


第九十圖  
亞細亞の水  
系  
裏海は面積約二  
八〇〇〇方里、  
水面は地中海面  
下二六米。

妨ぐるを以て、劃然たる地文及び人文上の境界を成せり。西藏は世界第一の高原にして、平均の高さ四千米に達し、諸大河の水源を成す。塔里木盆地は其の北にありて、タクラマカンの沙漠を抱き、蒙古高原は尙ほ北東に當り、ゴビ沙漠その南半を占む。されど、露領土耳其斯坦の西半は土地低平にして、往古この邊一帶海水に蔽はれ、裏海・アラル海等は其の一部殘存せるものなりといふ。河川は多く内陸流域に屬し、塔里木河は羅布湖に、伊犁河はバルハシ湖に、アム・シル兩河はアラル海に、ウラル

第九十一圖

亞細亞一月  
等溫線



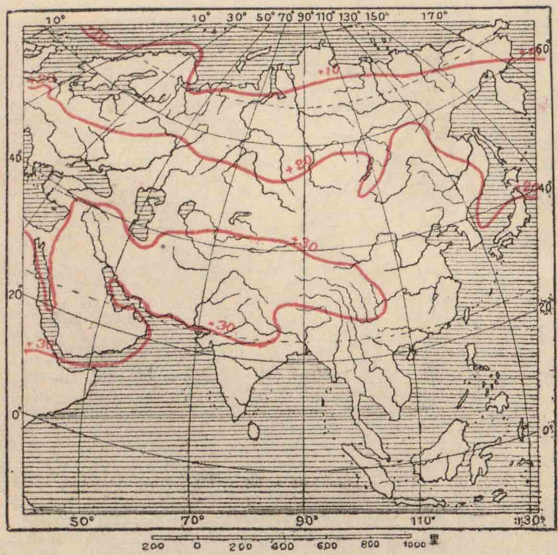
中部亞細亞には  
馬・驢・羊・駱駝  
の類の今尙野獸  
として存するも  
のあり。

河は裏海に注ぎ、西藏には初夏解氷期に沼澤を成す處多し。然れども其の周圍の山脈に出づる河は、海に出でて亞細亞の大河となる。

氣候は全く大陸性にして寒暑の差甚しく、西藏にては夏の晝は酷熱なれども、夜間薄氷を結ぶこと稀ならず、雨量少く、數年間一滴の降雨をも見ざる地ありて、沙漠、荒原頗る廣し。故に土地多くは不毛にして、馬・羊・牛・駱駝・犛牛の遊牧行はれ、農業は山麓及び河流に沿ひ、灌漑の便ある處に限らる。

第九十二圖

亞細亞七月  
等溫線



二、北部亞細亞(主として北極洋斜面)

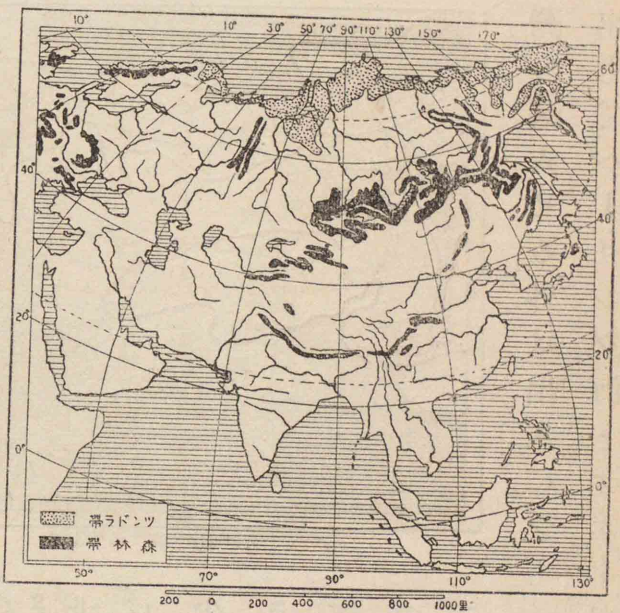
露領西比利亞の大部にして、南には支那との境に、天山・アルタイ・サヤン諸山系・ヤブ

Altai  
ロノイ高臺を控へ、更に北東  
Stanovoi  
北西に緩斜し、オブ・エニセイ・  
レナの諸大河皆北流せり。西  
半は低地廣く、其の西端はウ  
ラル山脈にて限られ、東半は  
概ね丘陵性にして、黒龍江其  
の南を流る。北極洋岸はタイ  
ミル半島の突出せると、オブ  
灣の灣入せる外は出入に乏しく、東方にカムチツカ半島突出して、ベーリング海とオホーツク海とを分つ。



第九十三圖

ツンドラ  
林帯の分布

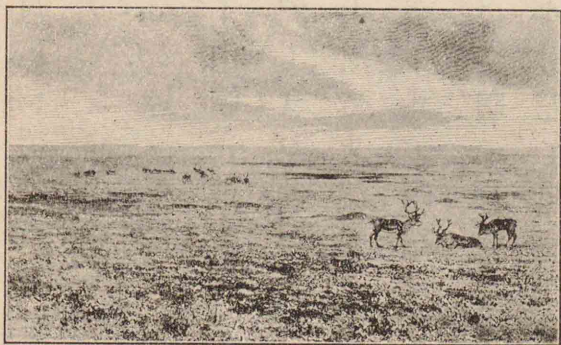


第九十四圖

ツンドラ

以て、氣候寒冷にして北半球の寒極この中にあり。夏季は短けれども割合に高温なれば、従つて南方には、針葉樹の森林帯

海洋は年中の大部氷結し、航行困難にして、殆ど氣候調和の用を爲さず。且つ北方開放せられて、寒風容易に吹き入り、南東の連山は暖風を遮るを



あれども、極北地方は凍土帯を成し、地下深く氷結し、夏季に表面融けて僅に蘚苔を生ずるのみ。動物には白熊・白狐・貂・虎・膾膾獸等の毛皮獸及び鱒・鮭等あり。

三、東部亞細亞

Eastern Asia 太平洋斜面の大部

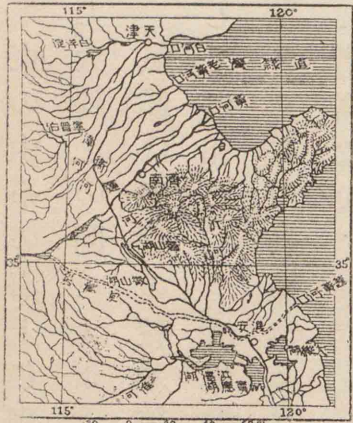
支那本部と滿洲・朝鮮及び

日本列島を含む。支那本部の中央には、崑崙山系東西に走りて脊梁を成し、岷山・秦嶺を起す。その一派北東に延びて陰山・興安嶺となる。其の南には、北東より南西に並走する南支那の小山脈あり。黄河・揚子江は此等の間を東流して、河畔に廣大なる沃野を作り、黒龍江は滿洲の北境を流る。山勝ちな朝鮮半島は、日本海と黄海とを分ち、遼東半島は山東半島と共に渤海灣を抱く。日本列島は本洲

第九十五圖

黄河の三角

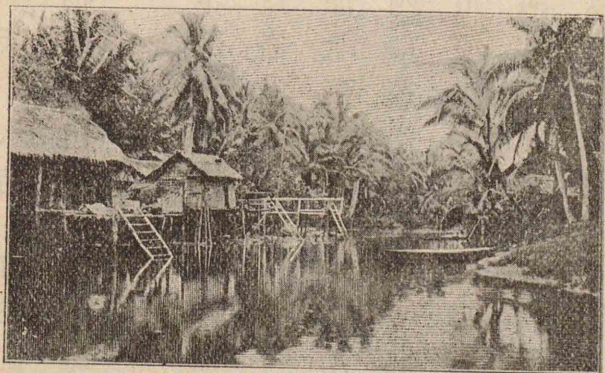
太平洋の西岸にはカムチャツカより日本列島・馬來群島を経て、ニュージールランド方面に及ぶ大火山脈あり。



最東の山系の海上に現はれたるものにて、三連の弓状をなし、大陸との間にオホーツク海・日本海・東支那海を擁す。氣候は寒暖の較差著しきも、大陸の他地方に比すれば概して溫和にして、海岸季節風帯には雨量多く、有用動植物及び礦産物等極めて豊富なり。

四、南部亞細亞 (Southern Asia) 印度洋斜面の大部及び東南亞細亞諸島

之に含まるゝは印度及び印度支那の兩半島と馬來群島となり。印度の北にはヒマラヤ山系障壁を成し、ガンジス・インダス二河の作れるヒンドスタン平原を隔ててデカン高原ありて三角形の半島を作り、東のベン

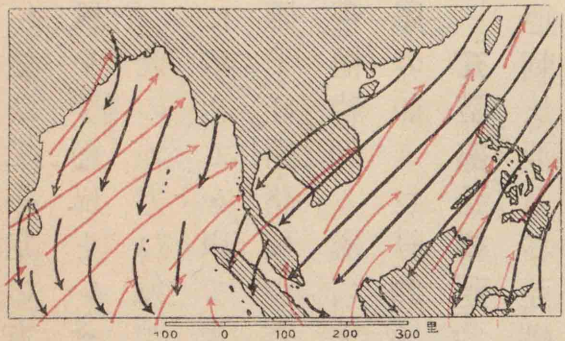


第九十六圖  
南亞細亞の  
植物景と住  
家

第九十七圖

東南亞細亞  
の季節風

赤は夏、黒は冬  
の季節風



ガル灣と、西の亞刺比亞海とを分つ。印度支那には同名の山系數派に分れて扇狀に走り、メーコン・サル井ン・イラワヂの諸川その間を流れ、上流の峽谷には人跡未到の地あれども、下流には大なる三角洲をつくる。馬來群島、本大陸と濠太刺利亞との間に飛石の如く横はり、大陸との間に南支那海を抱く。海岸は出入多し。地域の大部は熱帯に屬するを以て、四季の變化なく、一年の季節は凡そ乾濕の二季に分れ、冬季の前後半年は北又は北東風多く、空氣乾燥し、他の半年は濕潤なる南西風諸山脈に衝突して、多量の降雨を來し、殊にブラーマプトラ下流のアッサム地方は世界最多雨の地なり。かく季節

第九十八圖

犀

に從ひて一定の方向に吹く風を季節風といふ。

Monsoon

此の地方は氣温高く濕氣

に富めるを以て、米・綿・藍・甘蔗

椰子・紅樹マンゴローブ諸種の香料等の熱

Mangrove

帶植物到る處に繁茂し、象・虎

犀の如き巨獸、鱷魚、大蛇の如き爬蟲類多し。

五、西部亞細亞Western Asia（內陸流域・印度洋西部及び地中海斜面）イラン地方

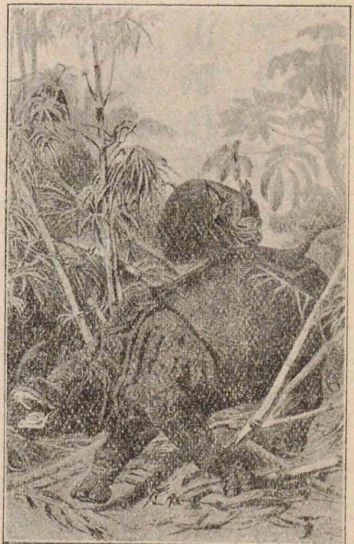
亞刺比亞及び亞細亞土耳其を含み、土地一般に高原性なり。

イラン高原の東にスレイマン山脈、北にヒンヅークSulaiman・シユエ

ルプールズ山脈、南にイラン山系ありて、外側の平野・湖・海に

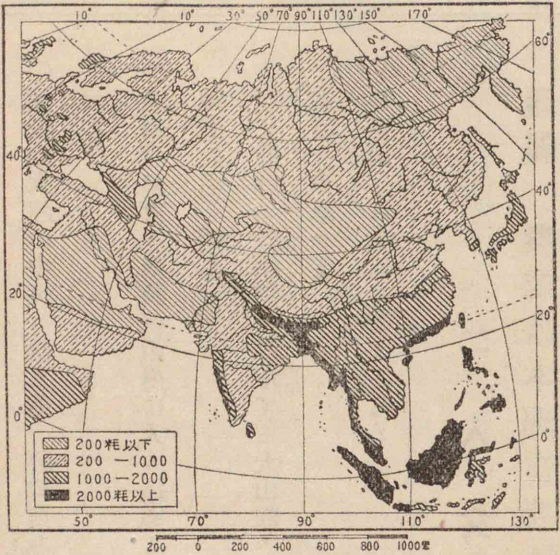
對して障壁をなす。此の諸山脈の一部は西北に延びて高加

索山脈となり、歐亞の自然の境界をなし、一部はアルメニア



第九十九圖

亞細亞の雨量分布圖



山地より高原性の小亞細亞半島に及び、地中海と黒海とを分つ。其の南の亞刺比亞は高臺性の大半島にて、イラン高原

との間に波斯灣、亞弗利加と

の間に紅海を擁す。此の半島

とイラン高原との間の北部

は、メソポタミアの低地にて、

チグリス・ユーフラテスの兩

河之を流れ、末は合してシヤテ

Shatt-el-

ルアラブ河となり、波斯灣に

注ぐ。此の地方は世界最熱の

地にて、雨量極少なれば、不毛

の沙漠多く、小亞細亞、メソポタミアの外は、大部分內陸流域なり。されば海岸及び山麓の地に、僅に棗椰子・珈琲・果實等を

産し、馬・羊・駱駝等多し。

設問

- 亞細亞大陸の中央に當る地の經緯度を示せ。
- 亞細亞の東・南及び西南に入り込める海灣の名を問ふ。
- 亞細亞の各平原を隔離する大山脈・高原を列舉せよ。
- 内陸河とは如何なるものなるか。

	長さ 里	流域-面積 方里
Ob	1300	184000
Yenisei	1300	162000
Lena	1150	150000
黑龍江	1120	125000
揚子江	1300	101000
Ganges	750	100800
黄河	1030	61000
Indus	800	60000
Euphrates	500	48000

二 人文

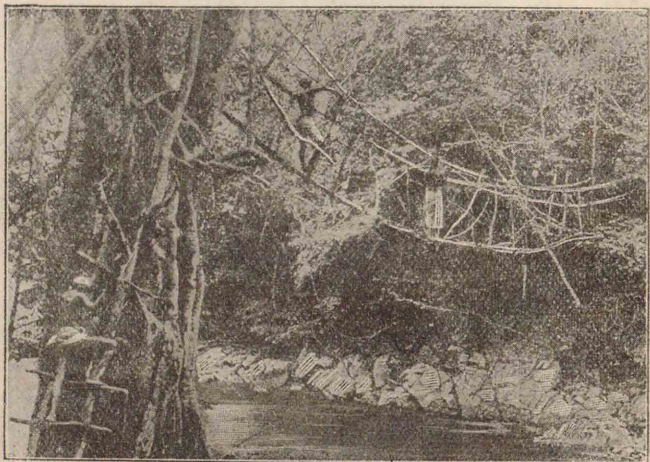
産業 農業は本洲主要の産業にして、殊に東部・南部の季節風帯に盛に行はれ、世界中農産最も豊饒なるは此の地方なり。就中、米・麥・茶・綿・生絲は莫大なる産額を有し、麻・阿

- 亞細亞大陸各部の氣候の特徴を述べよ。
- 亞細亞大陸中、動植物の最も豊富なるは何れの地方なるか。
- 亞細亞大陸中、最も人類の生活に適せる地方は何處なるか。

第百圖

錫蘭島蔓橋

片・甘蔗等之に次ぐ。其の他滿洲の大豆・印度及び露領亞細亞の小麥、馬來群島の香料等名あり。牧畜は殆ど本大陸の全部に行はれ、豚・牛・馬・犂牛・水牛及び駱駝等最も多く、南部には象の飼養盛なり。礦物の埋藏は甚だ豊富にして、殊に支那の石炭は無盡藏といはれ、馬來半島の錫、西比利亞の金、其の他各地に鐵・銀・石墨・寶石を産す。されど採掘せられ居るは其の一小部分のみ。太平洋岸の鯨・鱈・鯨膾・獸・臘虎、さては滿洲の木材、印度支那・馬來群島の護謨及び木材共に夥しく、工業は東部地方に於ては絹織物・紡績・陶磁器



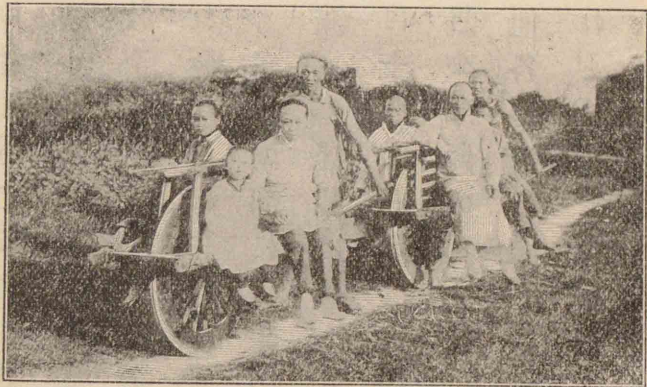
第一百圖

メーコン河  
の鐵索橋

鐵道延長  
印度 三、五〇〇  
西比利亞 一〇、〇〇〇  
日本 七、〇〇〇  
支那 五、〇〇〇

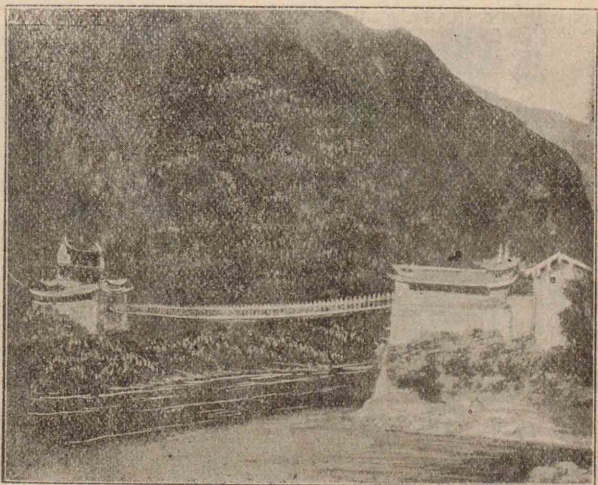
第一百二圖

一輪車



製鐵業等を主とし、印度に於ては紡績・製鐵・製麻等を主とす。商業は日本・印度・支那に活潑なれど、産業未だ幼稚なれば、原料品・食料品を輸出して、加工品を輸入す。

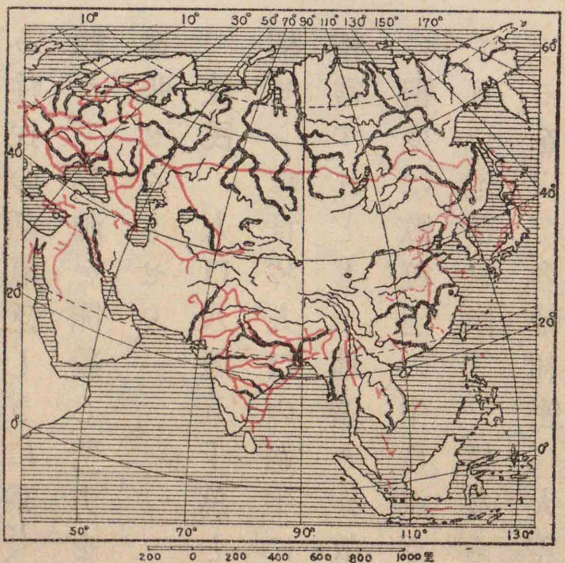
交通 大山脈・沙漠等處々に横はり、土地未だ開けざる地方多く、内地の交通は極めて不便にして、多く馬駱駝を



第一百三圖

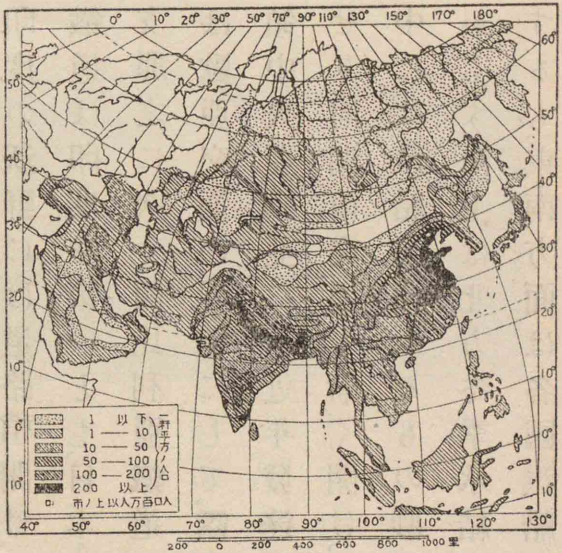
亞細亞交通

使用し、蔓橋鐵索によりて險路を踰ゆる所あり。又北部は橇を、東部は馬車・轎等を用ゐて交通に便す。沿海地方及び支那・印度の沃野には道路稍開け、鐵道は印度を第一とし、日本・支那之に次ぐ。西比利亞鐵道は歐亞交通の幹線にして、露領中央亞細亞にも近年發達せり。河湖の交通も漸く開け、中には汽船を通ずるもの尠からず。海上は北方冬季氷結するも、東南方面は各國汽船の往來年々繁盛に赴き、橫濱・上海・香港・新嘉坡・カルカッタ・孟買・コロンボ等を中心として、東西・南洋の貿易・交通大に發展の



第四百四圖

亞細亞の人口密度圖



氣運に向へり。陸上海底の電線も大陸内のみならず、各大陸との連絡、漸次容易となれり。歐米列強は亞細亞が天産に富み、住民の活氣乏しきに乗じ、競うて利源を開發し、勢力を擴張せんとせり。

住民 人口八億五千萬と稱せられ、世界人口の過半に相當すれども、土地廣きが故に密度は歐羅巴の半に過ぎず。且つ地勢氣候等一様ならざるを以て、各地粗密に大差あり。中北西部は概して人煙稀薄なれども、東南部は戸口夥しく、殊に揚子江・ガンヂス流域の如きは、地球上最も稠密な

る地方に屬す。

- 亞細亞人種
- 日本族 (日本内地)
- 朝鮮族 (朝鮮)
- 北極族 (西比利亞)
- 土耳其族 (新疆省、露領中央亞細亞)
- 蒙古族 (蒙古)
- 通古斯族 (滿洲)
- 漢族 (支那本部)
- 西藏族 (西藏、青海)
- 印度支那族 (印度支那)
- 苗族 (印度支那及支那本部)
- 歐羅巴人種
- セミチック族 (亞刺比亞、亞細亞土耳其)
- アリアン族 (印度、波斯)
- スラヴ族 (西比利亞)
- 馬來人種
- 馬來族
- インドネシア族

本大陸の種族は大別して、亞細亞人種・歐羅巴人種・馬來人種等に分つべし。亞細亞人種は一名蒙古人種とも云ひ、中部・東部に多く、日本族・朝鮮族・漢族・通古斯族・印度支那族・土耳其族・蒙古族・西藏族・北極族等に分る。總數約六億あり。歐羅巴人種は一名高加索人種とも云ひ、南部より西部に亘りて多く、總數約二億あり。印度・イラン・高加索に住するアリアン族・亞刺比亞・亞細亞・土耳其に住するセミチック族之に屬す。尙ほ此の人種の一派なるスラヴ族(露西亞人)は近年北部亞細亞に移住し、今其の主要住民たり。馬來人種は馬來半島・群島に住し、馬來族・インドネシア族之に屬す。此の外、馬來群島・半島に散在するネグリトと總稱せらるる黑人及び印度のドラビダ族の如きは、所屬不明の人種にて、古廣く分布せし原

ドラギダ族  
(印度)  
ネグロ族  
ネグリト  
族  
(以上二族馬來  
群島)

住民なるが、他の優勢なる種族に壓倒せられ、今其の一部殘存せるものなり。支那及び印度支那の山中に多き苗族、我がアイヌ族、其の他の北極族の如きも、亦かゝる原住民なり。此等種族の開化は一様ならず、中部西部には天幕に住み、水草を追うて轉住するもの多く、北極族の多數は漁獵又は馴鹿の遊牧をなして生活す。東部南部の住民は多く村落都邑に定住し、農商を業とするも、熱帶地方には水上に住居するもの多く、此の地方の森林中に住する原住民には、跣足裸體の未開なる蠻人多く、中には馘首の蠻風を存するものあり。東部・南部・西部の住民は世界最古の文明を作りし民族の裔なれど、今は其の文化大に歐米に遅れ、多くは歐米人の押壓に甘んず。獨り我が日本族は、三千年の古より日本列島に據りて、東西の文明をよく理解し、無比の國體と忠良の臣民

とを以て東亞に雄飛せり。

**宗教** 世界の大宗教は皆本洲に起り、次第に各洲に普及せり。佛教は日本・支那・印度支那等に行はれ、これより脱化せる喇嘛教は支那外藩に、ヒンヅー教は印度に行はる。儒教・道教は支那本部に、回教は中部・西部・南部に擴がり、基督教は他洲に弘布せり。蠻人中には劣等なる自然崇拜をなすもの少からず。

**邦土** 亞細亞は諸大陸中比類なき面積・人口と、多様な風土・産物とを有し、世界の文化・宗教の淵源地にして、嘗ては世界的大帝國の建設せられしこと屢ありしかども、今は空しく衰殘の歴史と、夥多の遺跡とを留めて、後進歐羅巴人の膝下に屈服するもの、土地・人民の過半に及べり。獨立國と稱する中にも波斯・暹羅は英・露又は英・佛領地の間に挾まれて、

僅に中立地帯をなせるに過ぎず。支那の要地亦列強の手に歸し、國家の基礎すら大に動搖せり。たゞ我が帝國獨り國運日に隆昌にして、世界の強國と比肩し、大陸の指導・保安の責に任ず。

設問

- 亞細亞に於ける人口の分布を略説せよ。
- 世界最古の文明の發生地を問ふ。
- 世界大宗教の起原地及び開祖を語れ。
- 亞細亞大陸諸地の政治上の現況如何。
- 亞細亞大陸内にて産業の最も發達せる地方につきて語れ。
- 亞細亞大陸の地勢と交通との關係を例を

- 擧げて説明せよ。
- 亞細亞より歐洲に至る水陸の路を順次に示せ。
- 大陸内にて獨立せる部と然らざる地方との面積人口を比較せよ。
- 日本の亞細亞大陸に於ける位置を示せ。

三訂地理學教科書外國之部 上卷 終

大正二年十月廿八日印  
 大正二年十月廿一日發  
 大正二年十二月廿二日訂正再版印刷  
 大正二年十二月廿五日訂正再版發行  
 大正四年十月廿七日訂正三版印刷  
 大正七年一月十二日訂正六版印刷  
 大正七年一月十五日訂正六版發行

三訂地理學教科書外國之部

大正	定價	上卷	金四十二錢
正	定價	中卷	金四十二錢
七	定價	下卷	金五十四錢
年	臨時定價	上卷	金四十八錢
定	臨時定價	中卷	金四十八錢
度	臨時定價	下卷	金六十二錢

大正八年臨時定價 金五十九錢



著者 理學博士 小川 琢 治  
 發行兼印刷者 東京市神田區裏神保町九番地 富山 房  
 右代表者 合資會社富山房社長 坂本 嘉治 馬  
 印刷所 東京市本所區番場町四番地 出版印刷株式會社本所分工場

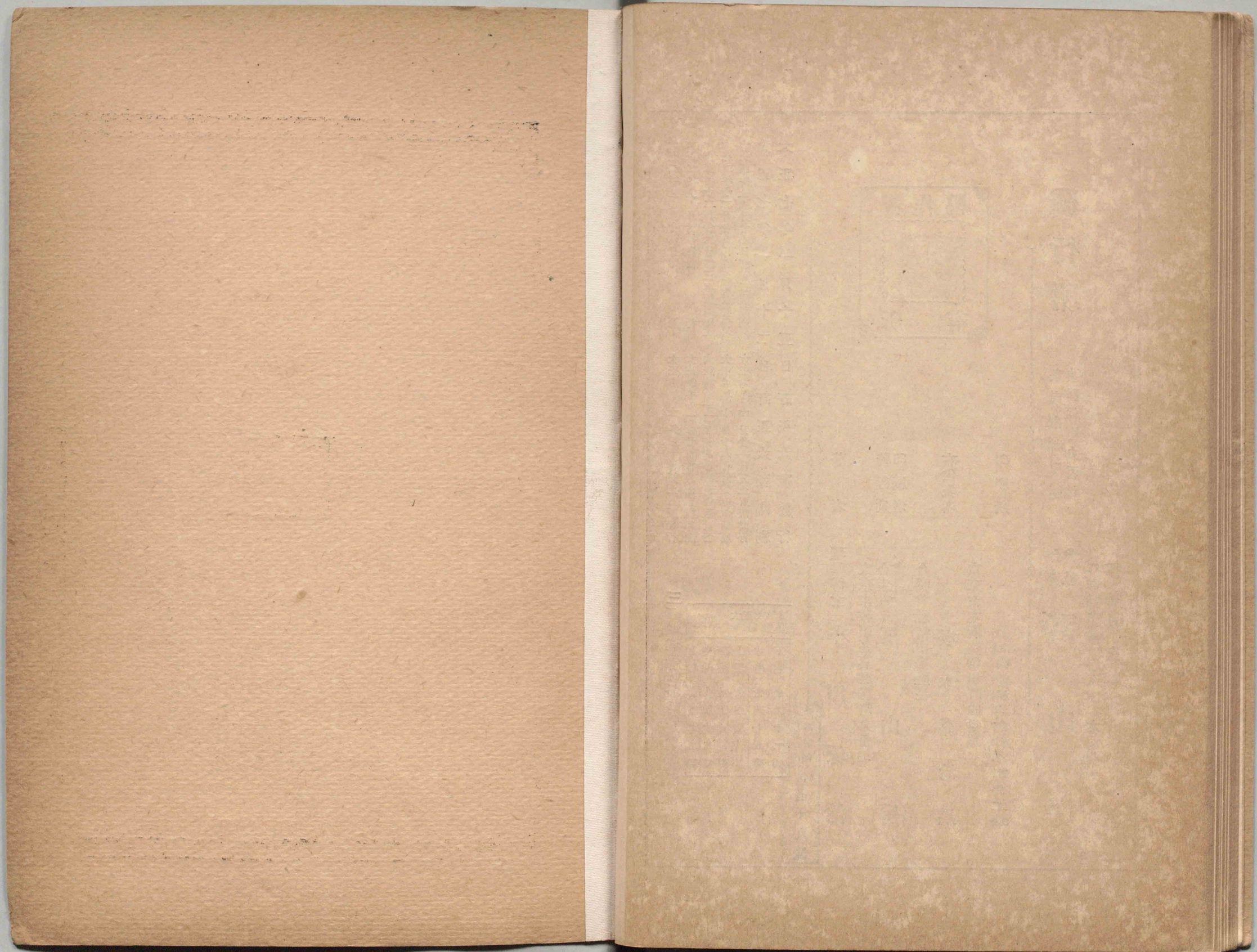
發行所

東京市神田區裏神保町九番地

合資會社 富山 房

長電話本局一〇三六、本局四一三〇番 振替口座東京五〇一〇番





文庫  
18  
549

広島大学図書

2000302549

